始

37-376

田尻稻次郎著

生きるの道

大正
8
内交

邸内に於ける著者

はしがき

世に道義を説く者決して尠しとせず、その名論卓説たるや、能く衆人を傾聽せしむるに足るものあり。然れども、その行跡に於ては往々にして自己の所説を裏切り、以て衆人の顰蹙を招く者多し。之れ現社會に在りて眞に道義を説くの士極めて尠き所以なり。

我が田尻北雷先生は、財政經濟學者にして併も身を以て他を感化する少數の道德家なり。その人に接するや『余の奉ずる處は「誠」の一途のみ』と常に學者振らず、その子爵振らざる處に先生の面目躍如たるものあり。高風仰がざるべけん哉。先生曩に十數年來奉職せる會計檢査院を辭するや、その理由を公表して曰く、

『余官海に在ること數十年、官數移り、朝恩年毎に加はる。今や部下の諸子、老練達識奉公の心旺にして大に用ゐるに足る。後進の途を開くべき秋也。熟、帝國の現狀を觀るに、財政經濟の不調甚しく、世道人心の頽敗亦有史以來曾て見ざる所なり、今にして之が計をなさゞれば他日臍を噬むとも及ばざらんとす。余や不敏、其器にあらずと雖も、漫然坐視するに忍びず。是を

以て骸骨を闕下に請ひ、殘軀を財政經濟に關する立法行政研究と育英事業とに投ぜんとす。以て國恩の萬分の一に報ゆるを得ば、終生の望み足る。』と、卽ちその淸き老體を我が日本帝國の爲め犧牲にすべく宣言せるものなり。偉なる哉、その言！　いまの世の『地の鹽』となし、『山上の光』となすに足らずや。少くとも吾等社會の改善を企圖し、之が實現を期せんとする者は、大に先生の意氣に學ばざるべからず。――現社會の經濟組織には大缺陷あり、之が爲め大多數者の生活動搖し、人心漸く不安を覺えつゝあり。此の時にして我が先覺者と步調を一にせずんば國民は禍なる哉。

本書は先生が最近道義の頽敗を慨し、或は時事問題に觸れて講演、若しくは執筆せし論說を集錄せるものにして、『財政と金融』外十數種の著書に多く見ざる特長を有す。そは卽ち『誠』を以て一貫せる處世訓を示し、以て社會道德を强調せるものなり。讀者幸にして先生の意を體せよ。尙ほ本書編纂に際し、理財評論主幹松本節堂氏、修養團幹事妹尾幸三氏が特別の便宜を與へられたるを玆に感謝す。

大正七年十月二十日

編者　修養團向上編輯部にて　山田司海識

生きるの道

目次

精神修養の工夫

至誠は凡てに通ず……一
所謂忠臣孝子……二
始あり終なかる可らず……四
士に三つあり……六
關羽の四句……七
日本の神樣と西洋のゴッド……九
天は己を助けざる者を助けず……一一
八遠說……一三

亂世の英雄と秩序的成功……一六
虚堂の説……一七
學者の陷り易き弊……二〇
坐忘に陷る勿れ……二三
口と鼻との問答……二三
セニュエルの九ヶ條……二五
世の中は木挽の如くせよ……二七
完全なる日本人……二九

青年の奮起を望む

道は簡易なり……三一
忠君愛國……三二

幽學翁の教へ……三三

豆粕飯を奬勵す

此の大切な脱脂豆……四五
豆粕の營養分研究……四七
豆粕飯向きの釜……五〇
細切肉の料理法……五二

我國の美風と精神の修養

護國の基礎……五三
日本を護るは國民の心血……五五
支那思想の影響……五七

印度思想の影響……五八
西洋思想の影響……五九
精神修養は國民の急務なり……六〇

日本の經濟財政

國民の衣食住……六二
其他の日用品……六五
農業の發達……六八
棉花の用途斯の如し……七〇
火藥の絹着物……七三
朝鮮と臺灣に着目せよ……七六
臺所の經濟……七九

消費經濟……八三
玄米は實に利益……八六
玄米の炊き方……八八
財政に就いて……九一
經常歲入……九四
負擔は下の方に……九七
土地自然增價稅……九九
獨逸の成金稅……一〇二
人體の滋養……一〇六
餡の這入らぬ饅頭……一〇九

我國民の特性

黄石公の素書……一一一
我國民の特性……一一三
神器と智仁勇……一一五
國の基礎……一一九
諸外國の基礎……一二一
戰後の形勢……一二四
露國及び米國……一二八
獨逸の回復力……一三一
日本の基礎……一三六
説二好話一、誌二好書一……一三八
做二好人一……一四〇
敬神の意義……一四二

至誠……一四五
忠孝一致……一四八
特産物の維持……一四九

戰後國力增進策

歐米交戰國に學べ……一五一
本邦の商工業……一五四
各交戰國の國債……一五六
當業者の任務……一六一

無くて七癖

格言と修養……一六一

虛堂の十病根說……一六三
足るを知らず貪らず……一六七
實行實働は我國の本領……一六九

時局に關する經濟問題

世界文明の逆轉……一七二
戰爭は既定の事實……一七五
亞細亞に野心……一七七
戰後の問題……一八一
獨逸の現狀……一八四
戰後の壯丁……一八六
戰後の準備と覺悟……一九〇

自給を要する諸物品……一九三
自給の研究……一九四
冷淡なる發明者の保護……一九七
棉花の缺乏如何……一九九
羊毛皮革の需給と滿蒙……二〇二
蒙古の遊牧……二〇五
皮革問題と魚革……二〇七
銅鐵の缺乏と節約……二〇九

工業經營の根本方針

少年勞働者……二一二
英國及獨逸の狀態……二一四

勞働者臺帳……二二七
證明書と勞働臺帳……二二九
少年勞働者の保護……二三二
各種主從の義務……二三四
法を守る甚だ難し……二三六
共同法の必要……二三八
オウエン氏の功績……二三〇
パイオニヤ組合……二三二
勞働者の地位向上……二三四
共同法の好例……二三六
共同主義の隆盛……二三八
勞働者にして且株主……二四一

勞働者と社會黨……二四三
共同主義は世の大勢……二四六
獨逸の共同組合……二四八
消費組合も發達……二五二
共同建築及び農業組合……二五五
佛國の勞働株券……二五七
テイラー式の經營……二五九
輸送課の事務……二六一
其他の幹部の事務……二六三
組長等の職務……二六四
師弟親族の關係……二六七
計算の方法……二六九

仕入れの巧妙……二七一
倉庫の整理……二七三
英國のクロスフイールド氏……二七四
獨逸のアツベ氏……二七八
下に厚く上に薄し……二八〇
堂々の議論……二八二
四分利不當に非ず……二八五
賞與を受くるは當然の權利……二八六
八時間勞働制……二八八
養老恩給等……二八九
疾病基金の制度……二九一
運動及び住屋の設備……二九三
恩澤四海に涉る……二九五

都市問題と東京市

都市の研究……二九七
現在の都市經營……二九九
當面の問題……三〇二
市民の協力を望む……三〇六

誠

天の道は春生秋息……三〇八
國家と家庭……三一一
物窮すれば通ず……三一三

誠を以て事に當れ……三一五

農村振興の要訣

一村の分限と村是……三一八
士地人口の調和……三一九
土地の整理と其利用……三二〇
學制を改善し農村の負擔を減少せよ……三二三
農業金融機關の完成……三二五
下級機關の必要……三二七
農業倉庫の設置……三三〇
米券發行と民設倉庫……三三四
地券制度の恢復……三三八

唯實行を竢つのみ……三四四

處世の道

國民思想の紊亂……三四六
原始章第一……三四九
西郷隆盛の眞價……三五三
德の意義……三五七
仁義の解釋……三六三
禮及勇の意義……三六八
賢人君子の態度……三七八
成敗の數……三八一
避け得ざる人種の鬪爭……三八六

去就の理……三九二
我輩の處世法……三九六
道を抱いて其時を待つ……四〇三
道高ければ其名後世に揚る……四一〇

目次終

生きるの道

法學博士 田尻稻次郎 著
爵子

精神修養の工夫

至誠は凡てに通ず

如何なる無智の人に對しても、吾人にして若し至誠を以てしたならば通ぜぬことは無いのである。總て世の中の事は、誠から割出さねばならぬ。

至誠は凡てに通ず

誠の解釋

元來、誠なる字は言偏に成と云ふ字を加へてある。言つた事をそのまゝに行へば誠になる。兎角、世の中には、言ふ事と行ふことゝ合はぬことがある。それではいけない、そもそも臣子たるものゝ、最も尊ぶべき忠孝は何から出て居るかと言ふに、至誠より外に出所は無い。

諸德は皆誠より出づ

卽ち、誠を以て君に仕ふれば忠となり、誠を以て父母に事ふれば、孝となる、誠を以て兄に對すれば悌となり、誠を以て弟に對すれば慈愛となり、誠を以て朋友に對すれば信義となる。

かくの如く忠孝信悌仁信義等の諸德は、皆誠から出るのである。世の中の事は誠の一字で盡されて居るのである。

身體髮膚之を父母に受く

所謂忠臣孝子

往々忠が先か、孝が先かといふやうな事を論ずる人があるが、忠も孝も皆誠から出て、唯對する者に依つて名を異にするに止まるのである。昔から忠臣は孝子の門より出づと謂つて居る。誠の心を以て君に事ふれば、其が忠となるのである。立極經天の道、孝より先なるものはない、何となれば父母は吾人の最も親しむ者であるからである。故に孝經にも身體髮膚之を父母に受く、敢て毀ひ傷らざるは孝の始めなりとある。吾人は父母から受けた身體髮膚を傷けてはならぬ。

然らば、戰爭に行つて、傷を受けても不可ないかといふ者もあるか

知らぬが、それは少しも差支ない。孝經にも、たゞ毀ひ傷らざるとはない。敢て毀ひ傷らざるとある。此の敢てといふ字が誠に見所である。

不孝の子は不忠の

惡戯をして父母に心配を掛け、御國の爲めに働けぬやうになるのを構はず、敢て身體を毀ひ傷くるは不孝である、不忠である。不孝の子は不忠の臣である。

始あり終なかる可らず

凡そ事物は、始あれば終なかるべからず、故に、孝經に、身を立て、道を行ひ、名を後世に擧げて、以て父母を顯はすは孝の終りなり、とある。

國家の良民

忠孝の道を全うせよ

卽ち、孝の道を全うするには、諸君が大きくなつて身を立てる。身を立てるには、國家の良民となつて、農工商其他夫々の職業を勵めば其れで好い。明治維新以來、士の常職を解かれ、四民平等になつたから、何人も同じやうに、此聖代に於て隨意に身を立てゝ農なり、工なり、商なりの道を行ひ、其他學問、政治、軍事、技藝、何にでも、隨意に業を修めて、偉い人になり、流石は某の子である、孫であると、世人に褒められる樣になれば、其が卽ち孝の終である。

人は身體を敢て毀ひ傷らぬ樣に注意することから身を立て道を行うて、終りまで心を盡して忠孝の道を全うせねばならぬ。

それで始めて眞の良民である。

始あり終なかる可らず

士に三つあり

士に上士、中士、下士の三つあつて、上士は道を聞いて力めて之を行ふ。中士は道を聞いて存するが如く、忘るゝが如く、ボンヤリしてゐる。下士は道を聞いて大いに笑ふ。卽ち下士は道を聞いても、そんな事は錢儲にならぬとか、何の役にも立たぬとか謂つてケナしてしまふ。それはいけない。

上士になるのも誠の道を履む丈の事である。諸君は中士で安んずるやうな事は無からう。況や下士になるに於てをや。

上士は父母師長より道を聞いて、力めて之を行うて精神を修養する。

上士の態度

兎角、人は外から刺戟を受けた方がよい。惡い刺戟を受けるのはよくないが、良い刺戟は己れの足らざる所を補ふの妙がある。それには何か守るものがある方がよい。

目で見るものか、耳で聽くものがあるが好い。そこで今諸君に文句を差上げる。幾つかの文句の中から、銘々好きな文句を選擇されたら宜からう。私のお話は串柿流である。串に刺してある柿の中から、甘さうなものをお取りなさい。

串柿流である

關羽の四句

第一は關羽の謂つた語で、卽ち說二好話一誌二好書一倣二好人一行二好事一

士に三つあり、關羽の四句

此の四句である。

説二好話一といふのは悪い事を話さずして、好いことを話すといふ事である。人の悪口を言つたり、徒らに雑談に耽るやうなことを避けて、忠臣義士とか、孝子節婦の話とか、何か爲になる善い話をするのである。

所が日本では、餘り善い事を話さずして、悪い事を話す人が多くて、人類社會を裨益するやうな好話は極めて少い。是は大いに反省せねばならぬ事である。要するに人は平素言語を慎み、苟も國家公共の爲に非ずんば語らずといふやうに有りたいと思ふ。

誌二好書一とは、口に善いことを話すのみならず、良い事を書くべく

説二好話一

誌二好書一

力むることである。悪いことを書いたり、讀んだりすると精神が悪くなる。

做二好人一とは、善い人の眞似をすることである。これに就いて、日本にはよい事が一つある。それは卽ち敬神といふ事である。

做二好人一

日本の神様と西洋のゴッド

天神様を拜する時

我國の神様は多く古の忠臣偉人を祀つたので、西洋の神、卽ち耶蘇教のゴッドとは大いに違つてゐる。人の尊敬する天神様は如何なる人であるか、言ふまでも無く、菅原道眞公である、公は誰も知る如く、誠忠無二の人である。天神様に參詣して、お辭儀をするときの心は、

あなたは偉いお方である、あれだけの忠を盡された。われ〳〵もあなたの半分位は君國の爲めに盡して見たい、といふ意味を以て拜む。何か福德を與へ下さいと、お辭儀をするのではない。我國には斯の如く今の好き人のみならず、古人の偉い人にも倣ひ易い樣にする有難いものがある。

偉人崇拜

湊川には楠公の神社があり、多武峯には鎌足公、高雄には淸麿公が祀つてあるやうに、我國には到る處に古の偉人が祀つてある。是等の人の歷史を省みて、之を崇拜すれば、自然好人に倣ふことが出來る。

天神樣に參詣しても、私は字が下手であるから上手になるやうにして下されと賴むが如きは間違つてゐる。天神樣は、かゝる者に對して

金儲の祈願

は、お前は手習は好きかとお尋ねになる。いえ、嫌ひで御座いますと答へると、天神樣は、手習が嫌ひで字が上手にならうとは無理である。上手になりたいなら、此處へ參る隙に手習をせよと仰せられるに相違ない。又、大黑樣に金儲を祈るのも此の類で、效驗のあらう筈はない。

行ニ好事一

天は己を助けざる者を助けず

昔から天は己を助けざる者を助けずといふ事がある。其の通りである。

次に行ニ好事一、是れは善い事を爲ると云ふことで、善い事をするには、自分の行つたことを反省するが一番好い。一日の課程を終へ、明

天は己を助けざる者を助けず

日の算術の問題も出來、また讀本の豫習も出來、今日爲すべきことが皆出來たらば、明日の仕事の順序を考へ、父母其他に挨拶をして寢る。さうして、今日は朝から寢るまでに何をしたか、あれは惡かつたから、もう再びせぬ。あれは善かつた。あの事は其時は善いと思つてしたが、今よく考へて見ると善くない。もう之からはせぬといふやうに、一々我が身を反省し、雜念を去つて寢る。

雜念を持つて寢ては夢などを見て、安眠が出來ぬ、雜念を去つて寢れば、少し寢ても大いに元氣を養ふことが出來、身體の健全を保ち、忠孝の道にも適ふことになる。

一體、國民の弱いといふことは、國家の爲めに非常なる損である。

一日耕さずんば三日食はず

人が病氣になると、二人分の費用が要る。卽ち、病人と看病人とが働かずして食はねばならぬ。古人の語に、「一日耕さずんば三日食はず」と言ふ事がある。其の通りである。

人間は一日働いて、一日食ふべきである。働かずして食へば、それは篦棒である。篦棒になつてはいけない。穀潰しになつては大變である。そこで、人は病氣に罹らぬやうに心掛けねばならぬ。それには飲食を愼み、寢る時に深呼吸をして、雜念を去つて寢るのである。

八遠說

第二は八遠說である。其の第一は、「技能の人は自己の長所と他人の

人を輕んずるな

一短所とを比較するが故に道遠し」。凡そ一人で萬事に通ずるといふ事は六ヶ敷い。孔子樣でも農の事を問はれた時、我老圃に若かざるなり、と言はれた。何でも知つて居ると言つて話す者は、實は何も知らぬ者である。併し、人には何か長所がある。其の長所を以て見れば、我人に勝り、人我に及ばぬ事が多い。己の短所を差し置き、人の短所のみを以て、人を輕んずるは惡い。

第二は、「人を助けたる者は、多く助けたりと思ひ、自己のみ助けたりと思ふが故に道遠し」。人を世話したり、助けたりするのは誠に善い事である。さりながら、それを鼻にかけ、若くは恩に着せるのは甚だよくない。

過ぎたるは猶及ばざるが如し

第三、「野心ある者は自己の所存の當れるが如く思ふが故に道遠し」。甘い事をしようと野心を抱いて居る人は、一寸思ふことが當ると乃公は實に偉いと自惚れる。古今東西、此の例が少くない。

第四、「固性の者は偏執なるが故に道遠し」。偏執頑固のよくないことは多言する迄もない。

第五、「萬事に注意が深過ぎる者は、事に延びざるが故に道遠し」。是は過ぎたるは猶及ばざるが如しと同樣で、全く注意し過ぎては、業に延ぶることが出來ぬ。此處と思ふときには、敢然決行するといふ決斷がなくてはならぬ。

亂世の英雄と秩序的成功

元來、亂世の英雄豪傑などは何でもない。大方、唯遣つつけろといふ山が當つたのである。太平の世の秩序的の成功とは大に趣を異にして居る。兎に角、世の中の事は、餘り考へて居ては駄目である。一通り研究して考へが付いたなら、思ひ切つて斷行するが好い。さうせぬと何の役にも立たぬ。

怪力亂神は迷信に屬す

第六、「怪力あるものは之を恃むが故に道遠し」。子は怪力亂神を語らずとて孔子樣は怪力亂神の事を說かぬ。御尤もである。所謂怪力亂神は多く迷信に屬し、世界の文明を魅し、今日の社會を魔し、不自然極まりて、世を利することは出來ないのである。

第七、「寒暑死生自己本位の者は道遠し」。寒暑死生を自己の爲にする者は尊氏で、君國の爲にするものは正成である。

第八、「自己のみを忠孝の士と思ふ者は道遠し」。是また自惚で好くない。すべて自分の品定は他人に任せて置くべきものである。毀譽褒貶を氣にかけてはならぬ。

虛堂の說

十病根說と稱するは、支那の虛堂といふ禪僧の說で、中々善く說いてある。

十病根說

昔から無くて七癖、と云ふが、世に立つや四つの病根を持つて居ない人は殆ど無い。虛堂の十病根とは何をいふかといふに、

一、病在二自信不レ及處一。二、病在二得失是非處一。三、病在二我見偏執處一。四、病在二限量窠臼處一。五、病在二機境不レ脫處一。六、病在二得レ少爲レ足處一。七、病在二一師一友處一。八、病在二旁宗別派處一。九、病在二位貌拘束處一。十、病在下自大了二一生一少不レ得處上。

の十箇條である。第一は自信の必要を說いたのである。すべて人は他人から信賴されるやうにならねばいけない。『此事はあの人に賴んだから大丈夫である』といふやうに、信賴されることが必要である。トンネルは個々の煉瓦の相持ちで保つて居る。一つ壞れると皆壞れる。其

國家公共の爲めに

と同時に、國家は個人々々の持合で成立つて居る。其個人が賴み甲斐の無いやうなことでは、國は保てない。

第二は何事も自己の得失是非から割出してはいけぬと云ふので、國家公共の爲には、自己の不利不便を忍ばねばならぬこと勿論である。

第三の偏執頑固は珍しく無い病である。

第四は少し六ケしいが、詰り心が狹くて、小さな臼の中に搗きつめられた樣ではいけぬといふ事である。

第五は多くハイカラ者流にある病で、周圍の有樣に支配せられ、自分の意志を曲げることを何とも思はぬやうではいけない。と戒めたものである。今、私が此處に出てお話をするといふ機境にあるのである

が、聽かるゝ諸君の氣に入るやうにと努めるのは、卽ち機境を脫せぬのである。唯、諸君の爲になり、延いて國家公共の爲になると信じて遣れば、機境を脫するのである。

學者の陷り易き弊

病在二師一友一處

第七は學者の陷り易い弊で、自分の學んだ者より外に、好いものはないと思ふ事である。漢學者は孔子を崇拜し、橫文字を讀む人は、外國では外國ではといつて、自分の國に米が何程出來るかを知らずに居る。獨逸で學んだ者は獨逸が偉いと、ドイツもコイツも崇拜する。其の佛蘭西で學んだ者は佛蘭西が偉い。英國で學んだ者は英國が偉いと崇拜するといふ有樣である。

確乎たる自信

昔の漢學者は、孔子ほど偉い人はない、支那ほど偉い國はないと思つて居た故に、其等の人の如きは、孔子が大將となり、十哲を率ゐて日本に攻めて來たら、どうするかといふ問に對して、唯だ降服するのみと言つたさうである。誠にクダラヌ話である。

僧侶は南無阿彌陀佛といふ外に何も知らず、耶蘇敎徒はアーメンアーメンの外に何も知らぬといふやうではいけない。

第八は異端を戒め、自己の本領を守るべきを說く。

第九は、また權威に壓せられて、自分の意志を述べ得ない如き卑怯の振舞を戒めたのである。無禮は宜しくないが、確乎たる自信と、威

武も屈する能はず、富貴も移すべからずといふ立脚地が無くてはならぬ。

第十は自ら尊大に構へ、其の實何等國家社會の爲に盡して居らぬことを戒めたものである。假令、人に知られずとも、社會公共の爲に貢獻したならば其で好い。古人も人の知らざるを憂へず、己の知らざるを憂ふと謂うて居る。

坐忘に陷る勿れ

世人の大方は、是等十箇條の中の何れかの病根を持つて居る。さて是等の病根を去るには、如何にすれば善いかと言へば、顏淵の所謂坐忘に陷らぬ樣にするのである。坐忘とは肢體を墮り、聰明を黜け、萬事に不注意なるを言ふのである。萬事に注意し、常に我身を省れば、病根は自然に去る。

大賢曾子ですら、日に我身を三省すと云はれた。況や吾々凡人に至つては、四省も五省もやらねば追つかぬ。坐忘に陷らぬやう注意し、以て、病根を除去すれば、やがて上士になれるのである。

大賢曾子も日に三省せり

口と鼻との問答

既に上士となれば、心の欲する所に從つて矩を踰えずといふ、所謂聖人の域に達するのである。諸君は注意次第で聖人になれる。孔子の

口の大氣焔

目、口、鼻も亦、現人と何等異る處がない。昔、口が鼻に向つて、汝は何の功があつて我が上に居るか、抑も我は食物を送つて人畜を養ふ、其功や甚だ大なり、聖人は恩禽獸に及ぶ、我德聖人に等し、豈汝が下風に起たんや、と大氣焔を吐いた。

所で鼻はせゝら笑つて、其は甚だ不都合な言分なり、抑も五峯中の中峯最も高し、我汝が上位に居る當然なり、と應へた。そこで口は開いた口が塞がらなかつた。

それから次は止せば好いのに、鼻が目に向つて、汝、何の德ありて、我が上位に居る、と喰つてかゝつた所が、目は、我は光を日月と爭ふ、五峯の上に輝く、固より其の處なり、と遣つつけた。

孔子の顏も今人に變らず

然るに目も亦眉に向つて難じて、汝、日月の上に居るのは、不都合なり、速かに下降せよと言つた。所が眉は謹んで命を奉ぜん、然れども僕が若し君の下位に着かば、大に人の面目を傷つけん、現狀を維持する、亦可ならずやと言つた。

是で、往昔、孔子樣の顏も矢張り今の人の顏の樣であつたと云ふことが分る。

セニユエルの九ケ條

次は事業の成功に必要なる性質である。是は佛蘭西のセニユエルと稱する學者の言である。別々に離して見ると餘り珍らしくも無いが、

中々うまく擧げてある。卽ち第一は辨別力。概して日本人は此の力に乏しい。第二は程の好いこと。我輩は程が好くない方であるから、之を言ふ資格は無いが、常に好くしようとは注意して居る。

第三は確實。是れは別にいふ必要は無い。

第四、判斷力。物を判斷する力で、此處ぞと思つたら、決然斷行する力が無いと駄目である。

第五、沈毅冷靜。事を爲すに、熱し過ぎてはならぬ。よく世の中で、彼の人は熱心家であるとか、よくまあ、あのやうに熱心にやつたものだとか言ふけれども、熱心も時と事とに依るので、昭用一時是れ大機、と云ふ如き場合には、大熱心を以て當らねばならぬが、併し、普通の

沈毅冷靜以て事に當れ

事、卽ち平時の事に對しては、沈毅冷靜にして、十年一日の如く倦まず撓まず、時に應じて爲し、機に乘じて取り、秩序よく進むに非ずんば、到底その成功を見ることは出來ぬ。彼の所謂熱心家と稱する者は、どうも長持ちのしないものである。併し、冷靜が冷淡になつてはいけない。

世の中は木挽の如くせよ

第六、忠實留意。凡そ人は職務に忠實でなくてはならぬ。又、留意は最も大切である。これが無かつたならば、機會を逸することがある。見るもの、聞くものに就いてよく注意せねばならぬ。

世の中は木挽の如くせよ

第七は理想に趨らざること。理想が無かつたならば進歩と云ふ事がない。故に無論、理想は無ければならぬが、理想のみに趨つてはならぬ。支那人は其の心を大にして、其の行を小にすと言つたが、震天動地の理想を有することは一向差支ないが、其の實行は自分の力で出來得るだけのことに止めて置かねばならぬ。世の中のことは、木挽のやうにするが好い。木挽が一たび鋸を動かす時は、それだけの功がある。兎角、仕事は後戻りをするのが一番いけない。分に過ぎた事をすると必ず後戻りをする。木挽に倣ふのは迂遠のやうであるが、結局それが道に達する要訣である。

其の心を大にし、其の行を小にす

第八、記憶力は無論養はねばならぬが、理解力を養はずして、妄りに形式的に極端なる記憶力を養つて、鑄型のやうな人が出來ては面白くない。近時の教育は多少、此の弊に陷つて居りはせぬかと思ふ。

日本人の長所缺點

第九、適用力。卽ち學んだことを實際に適用することは、極めて必要な事である。日本人は物を學ぶ能力に於ては、世界中の人に劣つて居ないが、學校を卒業して、世の中の仕事をする段になり、其の學んだ所を適用して、事物を發明發見するといふ點になると、遺憾ながら西洋に一歩を讓る事が多い。右九ヶ條が成功に必要なる性質である。

完全なる日本人

以上述べ來つた所のものは、天下何人に對しても緊要であると思は

れるのであるけれども、尙ほ、日本人としては、如何なる人間が最も完全なる典型であり、模範であるかといふことを考へて見ると、私は常に斯く考へるのである。

其れは外でもない。智仁勇の三者である。日本人たる者は、三者中その一を缺いても決してならぬのである。我國には天祖以來、三種の神器なるものが皇室に傳へられてあつて、皇位の移らるゝ所、影の形に隨ふが如く、必ず其の處を一にし奉つて、歷代帝室の至寶となつて居るのである。

三種の神器

而して此の三種の神器は、私は是を以て、智仁勇の象徵であると觀奉るのである。卽ち劍は勇、璽は仁、鏡は智を表示したものであつて

此の三者の一を缺いても、立派な日本人といふ事は出來ない。我等は日夜かゝる理想の下に修養の道を勵むべきものであると思ふ。

青年の奮起を望む

道は簡易なり

天地の道は簡易なり。聖人の道亦然り、日月を順にして晝夜を分ち陰陽を順にして之を生殺し、山川を順にして之を高下す。夫れ然り、豈に夫れ然らざらん。而して人道は他なし祖國を順にして之を內にし、與國を順にして之を外にし、人倫を順にして之を序す。

然るに世動もすれば己を棄て正に逆き、同藝相妬み同巧相謀り、己

己に出づる者は己に歸る

に出る者は己に歸り百福歸せずして百禍の攻むる所となり、煩悶憂苦の聲漸く喧すし。之他なし、人心名利を收むるに急にして、他を顧みるの遑なく、所謂鹿を追ふの獵師山を見ずの譬に漏れず、策を不仁に決して自ら險しくし、善を聞きて忽ちに略し、任ずる所を信ぜず、信ずる所に任ぜず、多願にして、自ら苦しみ、獨を愼まずして孤獨に陷り、敗は私多きより敗なるはなきの理を悟らざる等にあり。

忠君愛國

夫れ愛すべきは國にあらずや、尊ぶべきは君にあらずや、敬畏すべきは父兄にあらずや、慈しむべきは弟にあらずや、親しむべく信ずべきは朋友にあらずや、勵むべきは業にあらずや、守るべきは分にあらずや。

斯くの如くなれば則ち修身齊家の道を實現する、何の難きことか之あらん。性理學の始祖大原幽學翁曾て道德百話を造り、之を以て鄕閭の子弟に敎ふ。其の第三十四條に曰く、「振るべからず」言簡にして意盡せり、則ち子弟は子弟「らしく」すべし、學生は學生「らしく」すべしとの意にして、人世の事は總て分を守り、物に誠にして信ならざるべからず。

幽學翁の敎へ

幽學翁の道德百話は據守すべきもの甚だ多し。依て玆に之を紹介して諸君の修養に資せんと欲す、諸君請ふ、拳々服膺あらんことを。

服膺すべき各條

第一條　性は天地の和なり

第二條　率性之謂道の之の字は分相應器量相應に道を行ふべきことなり

第三條　人心と道心

第四條　道を行ふ者は稀なり

第五條　道を行ふには易きよりすべし

第六條　道は偏るべからず

第七條　忠恕

禮は分相應に行へ

第八條　道を學ぶに僻を去らずんばあるべからざることあり

第九條　道は一なり

第十條　善惡の標準

第十一條　禮は分相應に準じて之を行ふべきものなり

第十二條　禮を立つべし

第十三條　分相應の規矩を守り私慾を全うすべからず

第十四條　分相應を知らざれば道を行ひ難し

中庸に志せ

第十五條　分相應の緒を知らんと欲する者は中庸に志すべし

第十六條　己れ節儉にして人に損毛掛くるべからず

第十七條　眞の節儉は金錢のみに非ず時間を惜しむものなり

第十八條　道に違つても一度は是非がない二度はしかたがないと恐るべきなり

第十九條　職業二重を爲すべからず

第二十條　他人の子も我子と均しく之を愛すべきなり

第廿一條　義務を盡くすべきなり

第廿二條　百里行くにも一足宛でなければ行かれぬ事

第廿三條　安價なるために必要なき品を購ふこと勿れ

第廿四條　自分がなす能はざることを他人に爲さしむること勿れ

第廿五條　忿る時は事を爲すべからず

第廿六條　何事もラシクすることを要す

百里の道も一足宛

私心あれば千萬卷の書も役立たず

第廿七條　其獨りを愼しむべし

第廿八條　人慾の私を去るに非ざれば千萬卷の書を讀むとも人を導くこと能はざるべし

第廿九條　奉公人を使ふにも恩愛を主とすべし

第三十條　子を育つるにも法則を守るべし

第卅一條　子を養育するに付ては怪力話などを決して爲すべからず

第卅二條　子供が人を惡く云ふときは知らぬ顏して居るべし

第卅三條　家の內に金錢など取散すべからず

第卅四條　振るべからす

第卅五條　子を養育するには仁に近きを專一とすべし

青年の奮起を望む

第卅六條　松の木に譬へて子を育つる方法を諭す

第卅七條　子の生長するに隨つて道の觀念を知らしむべし

第卅八條　愚俗を養ふ幽玄を能く味ふべきなり

第卅九條　愚俗の道を學ぶことは碁を習ふと同じ味ひあるものなり

第四十條　繕ひ學者に陷るべからず

第四十一條　畫ける幽靈

第四十二條　偏る時は激するものなり

第四十三條　慢心なき師を擇ぶべし

第四十四條　小人の解

第四十五條　善良なる習慣ならしむべし

第四十六條　人に勝たん事のみを思ふは甚だ惡し

第四十七條　眼前の事に迷ふべからず

第四十八條　其場限りの事而已に心を置くものは薄氷を踏むが如し

第四十九條　災を以て後の幸の種とするにあらざれば遠く慮るこ
とを得ざるなり

第五十條　土地の改良に意を用ふべし

第五十一條　孝の解

第五十二條　我慢我情を募る間敷事

第五十三條　君の爲めに我身を思ふべからず

第五十四條　明日ありと思ふべからず

第五十五條　稻と稗とを見て善行をなすべきことを諭す

第五十六條　雜草の繁茂するを見て道心の行ひ難き事を諭す

第五十七條　鷄を見ても人を愛せずんばあるべからず

第五十八條　勞働を勉むべし

第五十九條　親孝行を爲さしむるは親の心にあり

第六十條　家内の和合すると和合せざるは主人の意思による

第六十一條　運は天にあり果報は寢て待てとの解

第六十二條　馬鹿者の出來る原因は氣儘なり

第六十三條　誠自ら成るの解

第六十四條　後悔するは第一の學問なり

後悔するは第一の學問

第六十五條　情の薄きと厚きとは平常の行ひにて知るべし

第六十六條　學問をするは行ひを勤めるが爲めなり

第六十七條　繩綯ふ家には孝子多し

第六十八條　知りたるのみにては不可なり

第六十九條　小事と雖も必ず忽にすべからず

第七十條　己れより上手なる者を猜むべからず

第七十一條　臨機應變と雖も天地の自然に離るべからず

第七十二條　變化盛衰は當然の理なり

第七十三條　愚讓怯謙を守るべし

第七十四條　道友多きは幸ひなり

第七十五條　皇恩を忘るべからず

第七十六條　酒と色と强慾を慎むべし

第七十七條　中の解

第七十八條　中和を致して萬物育すとの解

第七十九條　艱難汝を玉にすと云ふ言葉を能く味ふべし

艱難汝を玉にす

第八十條　接木に譬へて人を諭す

第八十一條　心廣く、體寬なるときは病ひも少きものなり

第八十二條　農作物を栽培するには土地の養分と肥料の吸收とを平等均一ならしむべし

第八十三條　宥座の器に就て

第八十四條　隱居心を去るべし

第八十五條　謀計を爲すべからず

第八十六條　日待、子安講等に集合するも、其方法を得ざれば甚だ惡し

足ることを知れ

第八十七條　大酒を爲すべからず

第八十八條　正直を守るべし

第八十九條　足ることを知るべし

第九十條　天地自然に順へば富貴となるものなり

第九十一條　人に惡く云はるゝは皆自分が云はるゝ樣にしたるなり

第九十二條　人は節義を守るべし

第九十三條　何事をなすにも油斷すべからず

第九十四條　節儉するも吝嗇に流るゝことあるべからず

第九十五條　儒者の解

第九十六條　氣儘は家内の和合を害ふ、又徳を積むも農業を忘るべからず

第九十七條　誠の道

第九十八條　朝夕の飯を煮るを見ても氣儘を爲すべからず

第九十九條　男の口より出たるは反古にならぬこと

第百條　難捨者義なり

二枚の舌は用ひず

豆粕飯を奬勵す

此の大切な脱脂豆

是まで豆粕は多く肥料に使はれて居て、それを人に食へといふのは、穩かな主張でないやうであるが、豆粕その物は大豆から脂肪を脱出したものに過ぎない。味噌でも醤油でも皆な脂肪が適當に脱れて居る。これは人體に必要上、斯くされて居るとすれば、その大切な脱脂豆を呼ぶのに、豆粕といふ言葉は面白くない。

此の脱脂豆は米の三分の一の價ひしか爲ない。脱脂豆百分中の定量分析は、

脱脂豆の價格

此の大切な脱脂豆

水	一一・七六
含窒素有機物（蛋白質として）	四四・七八
脂肪	四・〇一
無窒素有機物	三二・五一
粗纖維	二・一二
灰分	四・八二

である。

この脱脂豆で、飯を炊いて食する事を發明した人は、永らく歐米に渡つて厨夫をして居た田邊玄平といふ人で、食料研究には非常な熱心家である。豆粕飯に就て田邊氏はかう語つた。

豆粕の營養分研究

『私が歐米から歸つて、不自由なものだと感じたのは、職工や、學生の携帶する辨當の飯である。米の飯は夏は腐り易く、冬季は硬ばるのみならず、白米には然う營養分のあるものではない。

祖先から常食とした米の飯を非難する譯ではないが、勞働者の如く、勞力を消耗する者には米の飯では營養が足りない。米で十分の營養を攝らうとするには、一日一人前一升は食べなければならない。一人前一日の米食量を三合と見做されてゐる日本人には、如何な大食家も、五合以上の大量は食されない。

豆粕飯を奬勵す

豆飯の發明は此の缺陷を補ふ爲めであるが、一體、パン嫌ひな日本人は、パンの製法を知つて居ない。現時、日本で製されて居るパンは、迚も我等の主食にはならない。斯樣に不完全なパンを作るのにも、日本人は五年も七年間も費やして、大發明家を氣取つてゐる。

歐米では家庭の媼もパンを作る事を知つてゐる。簡單に營養に富めるパンを作り得られるのを忘れてゐる日本では、迚もパンを勞働者や學童の辨當として、侑める事は出來ない。

模範的な主食品

私は之が爲に辨當用としてのパンを發明したのであるが、此度の豆飯は、豆粕を利用して、模範的な主食品を工夫したに過ぎない。

大豆には、含水炭素と蛋白と脂肪と石灰分が含まれてある。大豆の脂肪は一種の有害分であるし、それに豆の中の含水炭素は脂肪と共に體溫を養ふ同性分であるから、豆の脂肪は少しも必要がない。

此の無用な脂肪を適當に脫いてあるものは俗にいふ豆粕であつて、これならば、他の筋肉を養ふ蛋白質と、血淸の効力ある石灰分と相待つて、白米の缺陷を補ふには充分である、といふ考へからして、白米と此の脫脂豆との混交法をも研究した結果、白米一升に脫脂豆約三合を等分にして炊ぐ事は、人體に適した最良の營養食料である事を見出した。斯樣にして、出來た脫脂豆飯は美味とは云はれぬ、が旨い旨くないといふのは、習慣の知覺に過ぎない。最初は不味いと思つて食したけれども、數日、これを食ひ續ける間に、結構に美味く食べられた。

脚氣を病む憂ひなし

豆粕飯を奬勵す

舌觸りも軟らかであるし、石灰分に富んでゐるから、脚氣を病む憂ひは毛頭無い。此の豆飯を姙婦に試みて見たが、産前産後の經過は至つて良好であつた。』

豆粕飯向きの釜

以上が田邊氏の工夫した豆粕飯である。豆飯は半搗米を炊いたものやうに、黄味を帶びてゐる。豆が扁平に壓されて居るのは、脱脂器にかけられた爲である。舌觸りは麥飯より軟らかくてうまい。

此の豆飯の炊き方は、米と豆とを一緒に洗つて、普通の米を炊ぐ方法通りに釜に仕掛ける。米一升に對して水一升二合といふ風に、普通飯を炊く通りで宜く、釜の中の殖え方も普通である。

粘を流さぬ釜

若し米と豆を等分に炊ぐと、餘程安くなる。脱脂豆の時價は一定せぬが、今の相場で一升十二三錢である。田邊氏は當分の中、その販賣方を深川佐賀町二丁目の鳩豆商會に托してゐる。

序でに紹介して置きたいのは釜である。どうも今迄の釜は粘を流して飯が拙いが、名古屋に粘を流さぬ釜が出來てゐる。名古屋驛長氣附として手紙を出せば、取寄せる事が出來る。

この釜は最初、火を強く焚いて、沸いて來ると鈴が鳴つて知らす。その時に火を引いて置くと良い加減に蒸せる。粘氣を一滴も流さぬから、非常に旨まい上に時間も十分間位で濟む。私の家では玄米炊釜に

して居るから、御希望の方は何時でも見に來るがよい。

細切肉の料理法

又、肉類に就いては、此頃の高價なること、實に驚く程だが、若し細切を巧みに利用すれば、中産階級以下で、モット肉をウマく食ふ事が出來る。

今、之を購ふに、假りに金十錢を求むるとするに、其量は極めて不定で、少ないときは百二三十目、多きは殆ど倍量のことがある。

之は肉屋でも、目分量であるからだ。是等の肉は非常に堅くて、到底嚙むことも、呑み込むことも出來ないが、此細切を水のない土鍋に

入れ、其の口を密閉し、蒸氣の飛散を防ぎ、約一時間グツ〳〵と煮れば、脂肪と水分とが出て、極めて軟かに恰度罐詰肉のやうになるから、其處へ醬油を入れると、頗るうまいものとなる。

更に寄宿舍、軍隊、若くは工場の如き多人數の所では、骨髓中の脂肪を煮出して、ソップを作つたら妙だらう。尙ほ脫脂豆飯に就いて、詳しい說明は田邊玄平氏著『脫脂豆飯と玄米麵麭』に讓つておく。

我國の美風と精神の修養

護國の基礎

何れの國にしましても國家の歷史を調べて見ますると、修養を非常

國を守るには

に必要とする時期がありますが、我が日本は今日其時期に當つて居るので、一日もこれを苟もすることが出來ぬのであります。

先づ國を守るには種々なる基礎及び方法がある。それは國々の事情に依つて異るもので一樣には申されません。物質的に物を以て其國を守るものもあれば、精神を以て守るより外仕方のない國もある。最も物質的に維持すると謂つても精神がこれに伴はなければ完全に維持することは出來ませんが、それかとて精神のみで守つて行くといふことはこれも亦難いことで、其の一方を缺いて一方のみで立つて居る國はありませぬ。これを事實に就て見るに、英國の如きは資本國で外國に貸出してある資本のみでも戰前四百億圓であるから其利子のみでも

所謂愛國心

年々二十億圓の收入があるのであります。即ち我國債と同じ位な利子が這入つて來るのでありますから、これだけで大抵の仕事は出來ます。此外英國は鐵と石炭の國であるから英國が石炭を出さねば世界の船が速力を減じるとさへ言はれて居ります。米國も獨逸も佛國も何れも大なる物質力を有して居るが、更に國民が祖國を愛するといふ觀念の强いことは今度の大戰に於ても能くこれを見ることが出來ます。

日本を護るは國民の心血

然るに日本は物質の力が乏しい。我國の產物では生絲のみは稍々世界的のものとなつてゐますが、謂はばこれも贅澤品に屬するもので、

これがなくては立ち行かんといふほどのものでないから、不景氣な時には瓦斯絲、麻絲、毛織などを之に代用して事が足ります。しかし生絲を除いて見ますと何一つ云ふに足る程の産物はないのであります。然らば何に依つて國を守るか、陸海軍で守るといふかも知れませんが、これは唯國の機關であるから單獨では運轉しません。之を運轉させる爲めには油がなくてはなりません。火がなければなりません。此の油となり火となるものは吾々國民の心血であります。我國に於て國を守るものは至誠の外何者もないのであります。

人に特有な點がなければ禽獸と等しくなる如く、國家にも特有な點がなければ衰へるのであります。既に述べたる如く、我日本には四海を壓するに足る物質は何もないのであるから、特に旺盛なる精神力を養うて國を守らなければなりません。これ我輩が大に精神の修養を必要と高唱する所以であります。

日本は貧乏國

支那思想の影響

我國は上に萬世一系の聖天子を奉戴し、下に忠孝節義なる國民が居て二千五百有餘年經來つたのでありまして、それは歷史に明らかな處でありますが、外國思想の輸入された爲め、今日までに前後三度此の固有の思想が動搖して居ります。卽ち第一は應神天皇の御宇に漢字が這入つて來た時でありまして、漢字の現はす思想は大分日本の思想に

近い上に文辭が艶麗で、說く處が巧みであるから、餘程日本の思想が動搖させられました。けれども漸次固有の思想たる忠孝節義の思想に立ち歸つて、漢文は唯日本の文明に貢獻するやうになつて來ました。

印度思想の影響

佛教の侵入

次に侵入して來たのは印度の佛教でありまして、此時は前よりも餘程思想が紛亂させられて、大臣連中でも衝突が起るなど隨分騷ぎましたが、これら王法佛法併立することになつて、好い具合に消化されて、我國固有の思想文明を發揮する助となりました。卽ち武門の世となり禪宗と武士道とを調和して日本魂を大に發揮するに至つたのが、それであります。元寇の亂は最もよく日本魂を發揮したものでありました。

西洋思想の影響

お山の大將式

その次に來たのが歐羅巴の思想であります。德川氏は外交難を怖れて久しく鎖國政策を採つてゐたが、歐洲航路の開けてより以來、歐洲の文明は滔々として東漸して參りますので、長夜の夢を貪つてゐた我國にも安政の頃よりぽつ〳〵外國人がやつて來るやうになつたのであります。

當時國民は、お山の大將式に、日本人に敵するものは、世界中に無いと考へて、盛に攘夷の說を唱へて、毛唐人を芋ざしにしようと吾々

も意氣込んだものであります。處がいよ〳〵やつて來て見ると素晴らしい大きな鐵砲を持つて居てドン〳〵大きな音をさせて擊ち出す。小銃でも、火繩筒よりは彼等の持つて居るのが遙かに良い。醫學も工業も其他專門の學問が凡て進んで居る。これは迚も人間業ではないぞといふやうになつて來たので、日本從來の思想が一時に亂され、或は個人主義を說き、民主々義を唱へ、自由を論ずるものが簇出して忠孝節義の觀念が衰へ、家族制度とか祖先崇拜であるとかいふ我國固有の美風が破れて、思想界は甚だしく混亂して來たのであります。

精神修養は國民の急務なり

日本固有の特質

斯くの如くんば我國は何を以て國を守るか甚だ危險なる次第であります。幸に近來は段々此事に氣の付くものが出來てきて、日本には日本固有の國體があり、特質があるから、大に之を發揮して國を守る土臺を作らなければならないと唱へるやうになつて來たのは喜ばしいことであります。

刻下の急務

元來最小の勞力を以て最大の結果を得るといふことが經濟の目的であります。我國民が最も說き易く又行ひ易きものは、建國以來養ひ來つた處の精神修養であるから、國家多事の時、國を守るの基礎を立つるのは、國民の精神を修養して、大和魂を發揮することであります。故に日本刻下の急務は精神の修養に在ると言ふ次第であります。

精神修養は國民の急務なり

日本の經濟財政

國民の衣食住

先づ國あれば人民がある。此人民に如何にして衣食住の要品を得せしめるかといふことが國を爲すの第一義である。衣食住が足らねば國を成すことが出來ないのであります。我國に於て一昨年(大正四年)まで一番心配であつたのは米が足らなかつたことで、夫から麥、豆、砂糖、石油これが悉く足らなかつた。處が一昨年から米は食ひ餘るやうになつた、大變に具合が宜い。御承知の通りに男子一年の食料は一石八斗女子が一石六斗を要する、之は玄米の計算です。此定量を內地の五千

男女一人前の食料

造酒に使ふ米

二百萬人に割當てますると過不足は直ちに分ります。然し是等の机上論は止めまして直ちに實驗に徵して見ると、先づどうしても一年に五千四百萬石は無ければいかぬと云ふ事實がある。尤も造酒の爲め潰す四百萬石乃至五百萬石も此內に含まれて居るのであります。

明治四十二年は當時に於けるまでの一番の豐作で、其年に米が始めて五千二百萬石出來ましたが、其豐年の後を承けましたのが翌年の同四十三年ですが、其年にも米の純輸入が約六千萬石ありました。左すれば五千二百萬石では足らなかつたと云ふ事が分る。其れより年々人口も增して居ますから、只今では五千四百萬石あればどうやら、かうやら不足は無からうと思はれます。然るに一昨年の米の生產高は五千

七百萬石で、昨年は、五千八百餘萬石でありましたから、米は儉約さへすれば多少は餘ると云ふことになつて來た。然らば麥はどうかと云ふと、今年は戰爭の爲に世界國中悉く食物が足らぬ。夫れで日本の麥も輸出しますが之は御承知の通り出來高が少ない、先づ二千二三百萬石と云ふ見當で全體では足らぬ、今年(大正六年)はもう今日迄輸出超過になつて居る。之は戰爭の爲に獨逸抔は極端に云ふと殆ど耕作することは出來ない。戰爭を遣りながら權兵衞は出來ない卽ち種を蒔きながら戰爭は出來ない。左の手で種を蒔きながら右の手で鐵砲を打つと云ふそんな事は迚も出來ぬ。英吉利、佛蘭西も同樣であります、只少々度合が違ふのみです。露西亞も其通り夫れから亞米利加も御承知の通り各國から夥しい彈丸其の他の軍需品の註文を受けた爲め農業に影響して食物が從前の如く豐富でない。其處で近頃其影響で以て米價がドシ〳〵高くなつて來る、今年の米も先づ大丈夫。

二兎を追ふ者は一兎も得ず

其他の日用品

麥も今のやうな勢でありますから、御承知の通りに味噌、醬油も造らなければならぬので、豆、麥の需要は却々〳〵多い。殊に豆は豆腐も造らなければならぬ。何も豆腐のやうな物は食はなくつても宜いと云はれるか知れませぬが、彼も好い食物で食物中であの位滋養のあるものはない。米丈けは平年なれば先づ安心と云ふことになつたが、麥は未

だ足らぬ、豆も僅々三百六十萬石の生産高でまだ足らぬ。

砂糖の製産力

砂糖はどうかと云ふと、臺灣の御蔭で漸く輸出超過になつた。之も一昨年位迄はいけなかつた、以前は砂糖は二千萬圓から輸入になつたが夫がいま輸出國となつた。

石油は今日少し這入りまするが今二三年すると自給が出來さうです秋田の黑川の油田が餘程良い樣です。其處の技師に尋ねて見ましたが其答が餘程面白い、其處で私は其れを信じて居るのです。答の要領は機械に用ひるとか船に焚くとか云ふものは請合は出來ない何ぜかと云ふと、機械や船の方は何處でどう增すか分らぬので油田の方で其の見當は付かぬが、然し燈火丈けならば幾ら家の數があつて幾ら燈すと云ふ事は直ちに分る。此方は請合はれると云ふのです、實に御尤もである此說明は信ずるに足るので若し頭から一も二も請合ふと云ふならば、當にならぬが、出來る所は出來る、出來ぬ所は出來ぬと事を分けての說明は信賴すべきである。

凶年の米産額

斯くの如く我國の經濟は米は平年なれば內地丈けで足ると云ふことになつて來た。麥豆は未だ足りませぬが、米の輸出で以てどうか斯うか之を補ふと云ふことには未だ〳〵いかぬ。又凶歲にでも遭遇したなら、米すらまだ安心は出來ぬ。中々油斷は出來ぬ、是迄の凶歲は一番惡いのが三千八百萬石しか出來ない、五千四百萬石要る所へ三千八百萬石では如何ともすることが出來ない。

農業の發達

近頃農業の發達は大いに見るべきものがあるが、未だまだこれで十分手を盡したと云ふ譯には行かぬ。物は研究を積んで何處迄も奮發をしなければならぬ、斯う云ふことがある。「之を得て究め難く、之を究めて盡くし難し」之を得ると云ふことは出來る。例へば立派に耕地を整理して立派な正條植を遣り、過ちなく肥料を施し手入を爲すと云ふこと卽ち之を得るのであります。さうして夫丈けを究めたら、是より先きに行くことが出來ぬと云ふ事はない。死ぬ時まで働かなければならぬ、餘計な喙を容れる樣ですが、日本には隱居と云ふのがあつて

いかぬです、跛足でも片目でも夫れ相應に働かなくてはならぬ。此の百姓が骨を折つて、働いて作る米を晝寢して居つて食つては罰が當ります。

其處で米の方は先づ心配が止んだ。今度は着物の方が心配になつて來た、之を如何にしようかと云ふ心配が起つて來る。固より人間は裸體では居られませぬ。是迄はどうして着物が足りて居つたかと云ふと夫は絹を賣りまして綿を買うて着物を着て居たのであります。之れでまあ解決は出來て居りました。先づ絹が一億六千萬圓と云ふ輸出で棉花の輸入が二億六千萬圓と云ふ高です。所で之が一寸見ると引合はぬ樣でありまするが、一億圓近くのものは綿糸になつたり織物になつた

りして輸出するのです、夫れで以てどうか斯うか引合つて居つたのであります。所が近頃現はれて來た事實は棉花は戰爭の爲めに高くなる何故かと云ふと棉花の需要が戰爭の爲めに二つ加はつて來た事實が此處にある、棉花は御承知でせうが、今日の火藥の材料です。

棉花の需要と戰爭

棉花の用途斯の如し

故に棉花は戰爭のために大抵燒き盡して仕舞つたでせう。又戰爭が濟むと復舊とか出師準備とかで非常に棉花が入用になる。夫れから兵士の夏服之が皆綿類です、此の夏服が一戰を經れば皆泥塗れ血塗れになつて仕舞つたでせう、獨逸抔には綿のわの字もありませぬ。國民は皆着物が二枚限りです、夫れは外出着と普通着と一枚宛しか持たせない其の他は皆取上げて仕舞つて夫を還元して兵隊の着物に造つて仕舞つて居る。夫れが爲めに國民の衣服は無くなつて居る、外の國はそれ程ではないが、大方同じ樣に新衣は成る丈け造らぬ樣にして居る。

棉花と土地の關係

所で或る者は夫れは心配に及ばぬ、需要供給と云ふものがあつて、さう入用なれば棉花を耕作する人があるだらうと云ふかも知れぬけれども、棉花は御承知の通りに氣候氣象に大いに關係があつて、或る一定の地帶でなくては出來ない、日本の內地では迚も駄目だ。御承知の通り白露の時節卽ち十五夜前後が棉花に一番大切な時節で、その時分に棉の花が咲く、其の際に雨風を喰つたならば棉花は臺なしになつて

仕舞ふ。棉は雨期に成長して、實を取る時分に雨の降らぬ場所でなくてはならぬ、さう云ふ場所にはもう悉く棉花を耕作して居る、其處で價が高くなつたと云うた所で、供給を急に殖やすと云ふ譯には行かぬ。之れが反對で以て絹でありますとまだ出來ますする餘地が有るが、棉花はさうはいかぬ。然るに戰爭の爲めに、大なる需要と云ふものが棉花の上に加はつて居る、故に今後は需要供給の道理で以て非常に高くなるに相違ない。既に近頃は、約三倍の高價を示して居る。未だ戰爭が濟まぬ内に既に左樣である、然らば何故戰爭の中途まで棉花の價が出なかつたかと云ふと、棉花は既述の如く、火藥の材料でありますから、戰時禁制品になつて居た、其處で亞米利加から餘り出すことが

出來なかつたが、もう止むを得ずズン〳〵出て來る。

火藥の絹着物

夫に引かへ今度戰爭が濟むと絹は安くなるやうである、無論永久の事ではありますまいが、此兩三年の間は餘程困るのです、夫は何故かと云ふと絹と云ふものが、抑々今日は軍需品なのであります。去年から今年に掛けて絹の輸出が多くなつたのは、人が絹を着るのではないのです。戰爭をして重い負擔をして居りながら絹の着物が着られたものです無い、夫は何うかと云ふと、大砲を發ちまするには彈藥を絹で包まなくてはならぬ、其處で絹が入用なのである。所で今日の大砲はど

今日は五十六珊砲

うかと云ふと、戰爭當初には四十二珊の大砲を造つたと云つて驚いて居つたが、佛蘭西抔では、今日は五十六珊を造つた、其大砲はもう既に五門位は戰場に行つて居る、後はせつせと造つて居る。さうすると吾々のやうな痩男が絹の着物を着るのと違つて、大きな肥えた砲彈を飛ばす火藥が絹着物を着るのでありますから夫で澤山に要るのです。勿論戰爭は永久のものでなく、追つ付け終つて仕舞ひませう、さうすると今日の如く大砲を打つ必要がなくなつて仕舞つて、今度は人が之を着るに止まる。然るに人は戰爭の爲めに非常に貧乏して需要力がなくなつて居る、第一に交戰國の國債は之を戰前に比して三四倍になるを免れぬ、さうすると其金高が四百億圓乃至五百億圓と云ふ非常の巨

獨逸の死傷數

額となり、其の利子丈けでも大變な話になる。國の費用は一般に增して來る。軍備の補充もしなければならぬ、其の費用がどうしても戰前に比し三倍以上にはなる、而して天下の壯丁は戰爭で以て大抵は倒れて仕舞つて居る。夫は豪いものです、此度の戰爭で人の死ぬと云ふものは、四十二珊とか五十六珊とか云ふ大きな大砲の丸が飛んで來るから其等に觸れた物は皆飛んだ目に遭つて仕舞ふ。始末に着かぬ、四十二珊の丸が地に落ちると十六間四方の穴が其處に開くのであります。獨逸などは昨年の末（千九百十六年末）までに海軍及び植民地の死傷を除き、戰地に於ける死傷が四百萬人以上になつてゐる。

朝鮮と臺灣に着目せよ

之は交戰國中で一番多いが他も之に準じて居る、其處で交戰國の生産力が非常に減ずるは數の免かれ難い所である。而して戰爭の爲めに總ての物質は消費盡されて居るから、絹でない木綿の着物が着られゝば結構である。迚も絹着物抔を着る餘裕はありませぬ。亞米利加が少し儲かるやうでありまするが、亞米利加へ絹の輸出と云ふものは、平年我が絹の輸出の四分の一であります、日本から出る一億六千萬圓の四分の一です、戰爭の爲め儲かりましたから多少は增しませうが倍になつても二分の一に止まる。歐羅巴の方はずつと減ずる。さうしますと

何を以て棉花を買ふか

何を以つて棉花を買ふかと云ふ問題が出て來る。もう仕樣がないです絹では買へない、固より永久の事ではありませぬが、暫くの間は買はれない。向ふが回復すれば、元の通りになつて來るが、此處二三年か五六年の所は餘程困る、其處でどうするかと云ふと、何か着物の材料の供給を求めなくてはならぬ。

茲に諸君に申上げたいのは、我が新領土になつた朝鮮と臺灣は棉花を耕作することが出來ることであります。これで以て先づ吾々の着る着物丈は出來るが、これに十分手を入れて作つて見ましても、是れまで通りに約一億圓の製品を海外へ輸出する丈けの其の原料はとても出來ないのであります。然し其れは高い原料でも構はずに仕入れて其製

品を高く賣ればそれでよい、唯だ吾人の着物が高くなるとそれと同時に其丈け又は其以上に吾人の資力が增せば好い、增さぬとなれば食物其他で生計費を減ずるか、又は貯蓄から減ぜねばならぬから甚だ困る

臺灣の棉花

依て横糸はザットした物で宜しいから、朝鮮棉花で間に合はせ、臺灣の棉花を縱糸にすれば何うか斯うか行けぬことはない。臺灣は年に二回棉花が出來ますから、丁度暴風雨の期を避けることが出來る、則ち暴風雨の時を略して二作出來る、臺灣は秋の颱風の本場でありますけれども、年中暖かいから耕作の手加減で颱風の災は避けられる、夫で臺灣の棉花を縱糸にして、朝鮮の棉花を横糸とする、さうすると諸君の召して居られる浴衣兵兒帶位は出來る。一方に之を爲し、他方に諸

玄米麵麭

君がもう少し働いて下さつて米麥豆等を好くして下さつて、不足の分は夫で以て買ふとすれば立ち行かぬ事はない、然し只今の所では米の餘りとか其他農產物の輸出で棉花を買ふには足らぬ。米の需要も殖えました、これは近來外人が非常に米を好み出したからであります。戰爭中から米が足らぬから、玄米麵麭の製造法を研究して見たのでありますが、麵麭が出來ます、非常に良い物が一斤十錢で出來ます、一斤ありますと普通の人の一日分より少くないです、勞働を劇しく遣らぬ人は十錢では少し殘る。

臺所の經濟

さうすると、臺所の經濟になるです、夫に副食に梅干が三つ位又澤庵漬が三切で十分ですから一日完全の食物が十二錢で濟みます。玄米麵麭其の他の麵麭の製造法は田邊玄平氏の著述に係る最新麵麭製造法に委しくありますから御覽を願ひたい。定價は六十錢で發行所は本郷區元町一丁目三番地東京割烹講習會でありますから御紹介して置きます。又前記田邊氏の住所は神田區富松町八番地です、麵麭製造の事は前記田邊氏の著述に讓つて此位にして止めます。

田邊氏と玄米麵麭

食物問題は近年大いに違つて來まして、米は平年作なれば幸に三四百萬石は餘る樣になりましたから、米の正當なる新需要法を考へなくてはならぬです。前記玄米麵麭の普及を圖るも其一方法で、麥は僅

僅二千二三百萬石の生産高で不足しますから、其の不足を米で補ふ方が宜ろしい。次に茶は餘り用ひぬ方が宜からうと思ひます。茶は多量に飲むと興奮して宜しくない。氣の沈んだ時には一寸は宜いが、寢る前に良い茶をガブ〳〵飲むと却々眠られない。所で麥湯と云ふものを造りますが、麥の中でも小麥は僅々五百萬石しか出來ませぬから、麥湯の代りに玄米湯を造るのです、夫れを吾輩は五六年用ひて居るが、非常に宜しい。大麥は大凡千萬石の生産高で所によると餘りますが、之は粉として米の粉と混ぜまするとと立派な麵麭が出來ます、さうして大麥の滋養不足は米で補ひますから、少しも差支はありませぬ、斯くして食物の過不足を調和せぬといけませぬ。米の新需要中最も面白く

玄米湯を用ひよ

發達しつゝあるのが玄米「ビスケット」の製造です。之は福井縣福井市の少し先きに丸岡と云ふ所があります、其處の定永某と云ふ餘程の熱心家があつて此人が工夫したものであります。之は非常に宜しいのです。一袋に二打ばかり這入つて居つたと思ひます。永久の商業としては如何ですか、只今は一袋五錢位のものである、朝飯は其の一袋あれば澤山だ、玄米麵麭より少し高いが味は甚だ宜しい、之を露西亞地方に遣つて見たのであります、隨分喜んで彼の髭口で食ふ樣であります。之も亦一つの研究である。さう云ふ具合に米の需要と云ふものをば、今度は造り出すのですが、夫から造り出す丈けではいけませぬ。

朝飯は一袋

消費經濟

更に消費經濟の方も考へなくてはならぬ、無論今の樣に米が高くなれば、吾々の樣な貧乏人は考へなくてはならぬ。さうすると玄米飯を食ふのであります、之が一番に宜しい。私は五六年行つて居りますが之は非常なものです、炊き方が少し面倒である。玄に玄米と白米との比較がある、玄米を上白にするには、三千杵搗かねばならぬ、又其の勞力も大したもので、搗減も平均七分五厘で眞に少なからぬ損失であります。而して今試みに玄米と精米との養分を示すと左の如く實に驚くべき差があります。

玄米と精米の差

	水分	固形分	蛋白	脂肪
玄米	六二、九九〇	三七、〇一〇	四、九四七	一、一九二
精米	六二、四九六	三七、五〇四	四、三三五	〇、四四四

	燐酸	炭水化物	粗纖維	灰分
玄米	〇、二八一	二八、三八六	一、三五〇	〇、五三一
精米	〇、〇九三	三二、〇二九	〇、四五八	〇、二三八

是れは陸軍糧秣本廠の分析に係る者で正確無比の成績です。中にも燐酸の如きは神經系統を養ひ腦力の發達を助くるに大に預つて力があります。斯くの如く精米は之を玄米に比べて、營養を缺くことが全食物の三割二分です、白米を食ひますると、脚氣が起つて來る。分量が增すから從つて脚氣患者が增加します。之は人間にも動物にも皆試みた結果であります。其處で玄米の方が良いと云ふことは分り切つたことであります。所で之を搗きますには、搗減り平均七分五厘は出るのです、少しフケに掛つた米抔は一割以上減る、夫れから搗賃が御承知の通り二斗臼で以て日に三回上りとして今日の所五十錢ではどうしても行けませぬ。夫れから炊きまして殖えることが玄米の方が三割餘計に殖えます、丁度一升三合の白米と一升の玄米と同じ分量の飯が出來る。

一升で三合の差

それでは食つてはどうか玄米の方が早く腹が減りはせぬかと云ふと、減らない、同じ事です。夫は其筈です脂肪が多いから、胃袋の弱い人は小言を云ふ。玄米はどうも腹が持てゝ行かぬと云ふが持てるが宜いのです。少し持てなくては役に立たぬ、行拔けになつて仕舞つては食

物の效能はありませぬ。

玄米は實に利益

何處から觀ても玄米は利益です。唯一つ玄米で已むことを得ぬ缺點は夏季の暑い時に腐敗が早いのであります。脂肪が多いからどうしても腐敗が早い、夫れならばどうするかと云ふと食ひ餘しを飯櫃に入れて井戸の中に釣つて置くのです。さうすると決して腐敗いたしませぬ。又冷藏庫とか何とか云うて高襟先生方が騷ぎ廻るがそんなものは要らぬ、日本には立派な冷藏庫が昔からある井戸がちやんとあるものを利用せぬからいかぬ。もう一つの缺點は之を當り前の釜で炊きまするとと

立派な冷藏庫

玄米の水加減

薪が少し餘計に要ります、此の二つの缺點です。所が腐敗は冷藏庫で以て防ぎ、釜の方は玄米釜と云ひまして玄米を炊くに都合の好い釜が出來て居る。之れで炊くと薪は却つて減じて半分で濟む、之は名古屋の長谷川德用釜商店と云ふ所で拵へて賣つて居る、御註文になれば、直ぐ送ります。單に御註文も良いが、夫れでは是迄使用して居る釜を不用にする事になるのです、それで唯要は蓋丈の話であるから、在來の釜の口徑を取つて私の所の釜は何尺何寸の口徑であると云うて遣りますと、其れに相應する蓋丈けを送つて呉れます。水加減が一寸面倒です、之はまた陸軍の糧秣廠で七十五回も研究して漸く出來たので、却々研究に困難をしたとの事です、米の良否、新舊米で少しは違ひま

すけれども、先づ玄米一升に水二升乃至二升四合と云ふ割合です、餘程多いですね、其處で水を含みますからして膨脹が多い。

玄米の炊き方

其の蓋の周圍に蒸氣の漏れませぬ樣に押へをしまして、夫れから火を引いて二十分許り蒸して置きます。さうしますと丁度好い加減の飯が出來ます。火が強過ぎて釜の蓋の間から湯氣が漏れるなら、蓋を手拭等に水を浸して冷しますと吹出が止ります。普通の釜で炊きましても宜いのですが、詰り薪の問題です。普通の釜で炊きますると蒸氣の漏れぬ樣に釜の口の圍りに綿布を卷付け又は藁の輪を置き蓋が上に持揚げられぬ樣に重りを載せて置くのです。右は單に釜炊きのみならず飯盒炊、蒸氣炊等もありますが、是等は拙著米穀經濟に讓ります。御一覽を乞ふ、發行所は麴町區有樂町五番地成澤十四三であります。

其處で米の炊增が出る、搗賃が要らぬ、搗減りが無い、夫れが假に五千萬石として算盤に當つて御覽なさい、非常な數が出來て來る。其の差で以て軍艦でも造る位は譯はないのです。軍備擴張も何も造作ない、世の中のことは工夫すれば出來るのであります。妙なことを申す樣ですが、元來人間と云ふ者は工夫をするやうに神樣が造つて居るのであります。動物の形狀に二種ありまして、頭が天に向つた形狀が一つ之を學語で進步的形狀と申します。一つは平行頭と申します牛馬の頭

は體と皆平行して居ります。之は進歩の出來ぬ形であります、牛でも馬でも昔からの儘で、あれより旨く遣れと云うた所で出來ませぬ。人間のは頭は上に向つて居る。又猿も上に頭が向つて居る。猿から人間は進化して來たと云ふ說があります、或はさうかも知れませぬ。それで人間の働きのあるものを彼はサル者だと云ひますね、其んな事はどうでも宜しい、兎に角人間は進歩の出來る形狀に出來て居りますから神意に應じて少し工夫して見なくてはならぬ。頭が進歩せぬ形狀に出來て居らぬものは、モウ「牛」とかヒン「馬」とか云つて居るより外に仕方がないが、神樣が工夫させる樣に拵へて居るのに、夫れを遣らぬのは甚だ不經濟(不敬罪)に當る。何故不經濟かと云ふと、夫の神樣の意

『彼はサル者』

に逆つて卽ち不敬の罪を犯して居る、何故神意に從はぬかと云ふ事になる。事は能はざるに非ず爲さざるなりで食物の生產消費とも先づ解決の方法は十分あるのです。然るに戰ひの爲め差向き困つて來た樣に我領土を以つて棉花を餘計に作るやうにするか、或は米なり麥なりを餘計に作る樣にして進むか、どちらも一緒にするが宜いが、何も遠慮するに及ばぬ。米の捌け道は幾らもある、心配はもう無くなつた。

財政に就いて

今後は財政に就いての事ですが、之は今日はどうも困るです。どうにかせなければならぬと云ふのは、財政の鞏固であるか鞏固でないか

天下の事皆標準あり

を見るに、極めて容易な標準がある。天下のことは皆標準がありますから、之を見て物を云はぬと丸切り法螺になつて仕舞ふ。國家の財政と云ふものは收入支出から成立つと云ふことは分り切つたことで、其の收入支出共に經常臨時等の二部に大別すと云うて會計法で規定してある。經常費なるものは、如何なるものかと云ふことを少しお話して置かぬと一寸具合が悪い、と云ふものは、國家には天職がある、之は文武當然の政を爲して民を統治し國を防禦するので之は當り前の國家の天職で、之を爲す爲めに要するものが經常費である。夫れから鐵道を敷かなくてはならぬ、河川を修築しなければならぬ、電信を引つ張つて見なければならぬ、と云ふ仕事は國家がしても宜しい、個人が

選擇事業

しても宜し、會社がしても宜い事で、一時の政略の爲めとか何とか云ふ事で、國家がする事があります。之れに要する費用が臨時費です。其の事業を選擇事業と申しまして、國家が選擇的に爲すので、固より天職外であるが、國家がするが宜からうと云ふことで選擇する臨時の仕事です。天職は何時迄經過しても止まぬ、收入が又さうですね、諸君の御出しになる御年貢とか、吾々の出す所得稅、商人の出す營業稅、是等は皆經常收入です。所が或る時季に山林を伐り出すとか拂下げるとか、或は公債を起すとか臨時に這入るものは臨時收入であります。其處で國家の經常收入を以つて、經常費と云ふものを裕に支辨することが出來て、以て若干の餘裕を生じ、國家の臨時費迄も夫々に辨

立派な形式

ずることが出來る。斯う云ふ狀態にある財政であれば宜しいのである。其處で今日の財政を見て御覽なさい、どうなつて居るか、物は立脚の地を定めないといかぬ、いづれも形式に於てはさうなつて居る、豫算の編成の形式に於ては立派な形式になつて居る。

經常歲入

然しながら一歩踏み込んで所謂今日の經常歲入なるものは、天與の性質、經常歲入であるや否や是を觀て御覽なさい。ぐるつと廻つて、今日の經常歲入と云ふものゝ內には、三十七八年の戰爭をする爲に起した臨時收入と云ふものが這入つて居る、只之を經常歲入としたのは法律の改正と豫算の編成の結果であつて、其の實臨時歲入が這入つて居るのであります。夫れを差引いて御覽なさい、摺れ〳〵か又は足りない。臨時費の部分を經常費の部分へ幾らか遣らぬと足らぬ、精しく計算したものがありますが、之は困難である、不健全である處の戰爭の費用を今日まで吾々は負うて居る勘定になつて居るけれども、今日の全體の收入を合して六億圓何ほのものを吾々が重いとか何とか租稅が五億何ほとか云ふことで騷ぎ廻るのは、餘り意氣地がなさ過ぎる。且又是れ丈けの大きな國で以て、日本も朝鮮が這入りましたから、今日は却々大きい、日本はモウ亞米利加合衆國、支那、露西亞を除いては一番に大きな國である。二十六萬方里以上です。朝鮮を合せるとさ

日本も大きな國

うなる。外の國はさうはない、英獨抔は豪い國とか大きいとか云ひますが、さうはない。日本は海の富がある、夫は盛んなものである。此の國が漸く五億圓や六億圓の荷物が重いとか何とか云ふことは、意氣地のない話で思ひも依らぬ。英吉利の如きは本土は十二萬方里しかない。人間が僅かに四千七百萬人で五千萬には足りない。さうして殆んど二十億圓のものを負つて居る、獨逸の如きは二十萬八千七百八十方里、人間は六千八百萬、之で以て聯邦を合せますと四十億圓以上である。それで吾々の負擔は數字から云ふと輕いものである、けれども其の輕い物でも負ひ方ですね、其の負ひ方が惡いと餘程困しいのです。今日より收入を減ずると云ふことは出來ませぬが、若し負ひ方を變へましたならば容易に負ひ得る。唯今のは御承知の通り歳入と云ふものが皆腰から下に重味が掛つて居つて頭の方は輕い、諸消費稅、專賣收入、交通稅、勤勞所得稅等は甚だ重い。

負擔は下の方に

卽ち負擔は下の方に重く、上の方の公債證書でも持つて居つて晝寢して居る人には掛らぬ。又印紙稅、登錄稅の如き皆中以下に重い、中以下の仕事をしなければならぬ人に賦課されて居る所得稅營業稅も甚だ重い、試みに之を戰前の率に引き戻しまして、唯今營業して居ります所の、金融機關、保險機關、交通機關と云ふやうなものがどうなる

國家の費用は

か、勘定を取つて見ると確かに利子料金の一分通りは之を減收することが出來る。さうすると貯蓄も餘程增加する、事業も振起する、御承知の通り國家の費用と云ふものは、納稅者の納稅資力と云ふものに比例して負擔すると云ふことは當然である。然るに不幸にして只今はさう云ふ具合に旨く行つて居らぬ、戰爭や彼是で已む事を得ぬ事情もありましたらうが、もう年數も立ちましたから整理の出來ぬ事はない。此處を改めて御覽なさい、此の位のものは決して、重くはない。荷物を持つのでもさうでせう。昔の驛遞の法では人間の負ふ重量は五貫目と決めてありますが之を頭に括り付けて御覽なさい、何うにもならぬ。夫れを又足に括り付けて御覽なさい、迚も歩けはしませぬ。足に五貫目の物を括り付けてお足（お錢）を出せと云うた所で出るものではありません。然し之を分けて二貫五百目宛となし、天秤棒で擔いで御覽なさい。何でもない、更に一部分を腰につけ、又肩に投げ掛けると一層輕い。國家の負擔もさう云ふやうなもので、其の置場所を調和すると譯はない。公債證書の利子とか、或は立派な家を持つて居る人とか、さう云ふ人は納稅力の强き人であるから、少し重くして好いが、精一杯働く人、又は構成中の資本には成る丈け輕くせんと事業が進まぬ。貯蓄を妨げる。

納稅力の强き人

土地自然增價稅

外國では土地自然增價稅と云ふ稅を皆取つて居りますが、日本には未だない。之は田なり畑を持つて居る人が、昔は不便不利であつた爲めに、價が低かつたものが、鐵道が出來た、市區改正が出來た、河身改修が出來たとか云ふ爲めに價格が自然に高くなつた。其れは全く自分の資本力を掛けて高くなつたのではなく、國家公共の力で以て、其地面が非常な價格を生じて來る、さう云ふ者は澤山ある。之れに對して稅を課するのです、稅と云ふより寧ろ知らぬ間に自分の財產價格が高くなつたのであるから、之に對して御禮を云ふのであります。夫れを宜しく遣るべし、又遣れるのです。之れで一廉の歲入は得られて、今日の苦しい稅は改廢することが出來ます、それから森林收入であり

當然の納稅

ますが、之も今日は僅に二三百萬圓である。外の國のことを云うて見ると獨逸の普魯西抔は日本よりか少ない、民林官林を合せて內地の森林の半分しか無い。然るに收入は殆んど六千萬圓もある、彼地は御承知の通り非常に氣候が惡い、森林事業と云ふものが却々容易でない。彼地で遣れることが日本に出來ぬ事はない、さう云ふやうな事で財源は最早やない〳〵と云ひますが、決して無いのではない。家屋稅でも之を國稅に直して、地方稅の方は之を附加稅にでもして遣ると何でもない。酒煙草の收入もやり方に依つては、製造家、消費家に餘り不利なくして隨分增加することが出來る。

又近頃成金稅もありますが、永久の事ではないが、之も取つて公債

土地自然增價稅

でも償還するが宜い、外の國では皆取つて居る、英吉利の成金税は六割です、卽ち成金と認めたものゝ六割を徵收する。

獨逸の成金税

此事に付ては獨逸の遣り方が面白い、成金屋がありまするとは、其の成金屋が若し會社でありますると、貴樣の所では、特別に戰爭の爲めに儲かつたものゝ五割を積立金にせよ、割賦は其を差引いた殘りであると云ふのであります、夫れが今年の九月までです。九月以後になると六割を積み立てなければならぬ、其の積立をした後でなければ、割賦を許さぬ。其の割賦金は二割五分から初めて、累進して四割五分に止めます、獨逸の遣り口は極く面白い。斯くすると或會社は臨時に非常に儲かつた、さうすると七割も配當して其の上、高い〳〵賞與を行うたなどと云ふ變てこな事はなくなる。尤もこれは一時でさう長くは行きませぬ。故に夫れを經常費に使ふ譯には行きませぬ。まあ國債償還のやうなもの、夫れから今度出來た電話の擴張費のやうなものに使用するが宜いので使ひ道は幾らでもあるのですが、夫れは未だ極めないであります。爲す可き事業は幾らもある、改正の餘地は大にある、故に一方より云へば、吾々は非常に幸福の地位に居るのであります。今日の事は御話しする通りに、悉くのことが、總べて能はざるに非ず爲さざるなり、爲さざるなりで遣れば出來るのです。吾人が奮發して

幸福の地位

遣れば出來ぬ事はない。所が之れを遣らずに居る、御互に智慧の有らん限りを搾り出して、もうこれよりはどうも仕方がない。此れ以上の智慧は何とも搾り樣がない、所謂進退維谷まつたと云ふ樣な事になつて困るなら實に仕方がない、さう云ふことになつたならば、又非常な驚天動地の計畫を遣らなければならぬが、日本ではさうでない、平々凡々たることを遣つて幾らでも出來る、之を遣らぬは吾々の怠りで出來ぬは甚だ遺憾である。夫れからして國債の整理、豫算の編成抔がありますが、之は餘り細節に渉りますから、別段に御話をせぬでも當局者に注意するのが早道と思ひます。其處で凡そ今日の財政經濟の變態と云ふものゝ病根は收入組織の惡いと云ふ事に在るのであります、之れが根本である。此處を直さねばならぬ、之れを直すのには今のやうに新財源を設けて以てすれば苦しいものは之を省くと云ふことが出來得る。夫れで天下後世に對して非常な望みがあると云ふことが能く分る、茲に至つて吾々は一層奮勵をしなくてはならぬ、と云ふ事が起つて來るのです。

收入組織が惡い

將來を思へ

さうして戰爭のこともありまするし、後のことも考へなければならぬ、又夫れには各々仕事を勵むより外に道がない、吾輩等は今日まで經濟財政と云ふものを研究をなし來つて居るのでありますが、食物のことも着物の事も遣りやう次第では、行けぬことはない。卽ち意外なる經濟の道を立てることも出來るのである。

人體の滋養

最後にお話して置きたい事があります。夫は人體の滋養の點です。牛肉には餘り滋養分がないのです、たゞ脂肪に富んで居るのです。然るに玄米には脂肪が十分あるので、其の少ない牛肉位るあるのです、玄米では少し蛋白が足らぬと云ふことがあるが、之は麥と交ぜて以て補ふことが出來る。所で燐酸が玄米にある。之は牛肉には無い。この燐酸は何故貴いかといふと、之は神經系統を養ふ成分を有して居る。神經系統を養つた結果といふものは腦髓も良くなつて來る。脂肪と蛋白で身體を養ひ、燐酸で腦を養ふことが五穀で完全に出來る。然し之

燐酸で腦を養ふ

水兵と食パン

を搗くといかぬ、麥を麵麭にする時は、「フスマ」を取らずに、其儘粉にして完全麵麭といふ麵麭にするが宜しい。軍國の民は麵麭を食ふ稽古をするの義務があると思ひます。海軍が一番困るのはこれです、戰爭の時に許り困るのではない、陸軍は平日は軍隊内に居りまして飯を炊いて食はせるが、海軍は船の中でありますから、一々飯を炊いて食はせると云ふ譯には行かぬ、其處で「ビスケット」及麵麭を食はせるので最初は隨分困るのです、どうも水兵がパンを食はぬのです。日本人は食事といふと飯に魚でも副へて食ひ汁でも吸ふものと考へて居る。夫に「ビスケット」及麵麭を與へられると丸で食はぬ、棄てゝ仕舞ふ。夫から十時頃になるともう腹が減つてヘナ〳〵になつて仕舞ふ、さうす

ると士官が來て貴樣何故働かぬかといふとどうも腹が減つて働けませぬ、未だ朝飯を食ひませぬ、先つき麵麭を遣つたではないか、あれが飯ですかと云つて驚いて居る。あれをどうした、あれは少し嚙つて見たが、餘り下味いから棄てゝ仕舞ひましたと云ふやうな譯で、どうしても麵麭に慣れるまでには三ヶ月も掛ります、列國の人は麵麭を食つて居るのでありますから、「パン〳〵」して働くことが出來るが、日本人はさう行かんで米の飯を食つて居るため、飯のやうに、「ニチヤ〳〵」して働けない。又只今御話した樣に農家で以つて野良などに出て働くのには麵麭を燒いて持つて行つた方が一番に宜からうと思ひます。麵麭も近頃は大變に良くなりまして、麵麭を燒くよりは之れを蒸して拵へるのです。

農家でもパンを用ひよ

餡の這入らぬ饅頭

何の事はない、餡の這入らぬ饅頭が出來る。丁度良い具合に麵麭の滋養のある材料で出來る、この一斤位るのものが一つあれば一日澤山であると思ひます。夫れに鹽に梅干又は澤庵でも持つて行くと澤山ある。外に餘計な副食物は要りませぬ、さう云ふやうなことで以つて少し麵麭を食ふ工夫を御願ひ致したい、さうすると今度皆樣方は一月の餅を搗きませう、彼の蒸籠で蒸すのです。麵麭を燒く設備をして態態遣ると面倒であるが、彼の蒸籠で蒸せば造作ない、其の遣り方は一

田邊氏の工夫

日稽古すれば直ぐに遣れます。之れは何でも二十年計りも世界を麵麭の研究して歩いた田邊玄平と云ふ人が工夫したので、此の人が種々な麵麭の研究を遣つて居る、之れが最近に研究いたしましたのが饅頭形の蒸麵麭であります。夫れから豆で拵へた麵麭もあります、麥に豆の粉を三分の一加へて麵麭を拵へます。夫れから肥料にする豆粕であります、其豆粕を粉にして麥に三分の一入れて拵へると立派な麵麭が出來る。何しろ二十年も世界各國を研究して歩いた人でありますから、縱文字より横文字の方が立派に出來る人間ですから氏に就て一日御稽古になれば立派な麵麭屋になれる。唯揑方と燒方の度合です、六ケ敷い事は些つとも無い、其人の住所は前記の如くであります、經濟財政の事は斯う云ふやうなことで結局の望みは洋々としてある。然しながら今日の實況は頗る困窮で缺陷が甚だ多い、此の缺陷はどうしても何かの方法を以つて補つて行かなければならぬ。之れは國を保つに就いての物質上のことである。夫れから精神上の事は今後申上げることに致しませう。

我國民の特性

黄石公の素書

黄石公が張良に與へた所の素書と云ふ書物がありますが、此の書の土臺が道德仁義禮となつて居るのです。

悟道の極意

道と云ふものは如何なるものか、之れは御承知の通りですが、「道者人之所レ蹈。使下二萬物一不知二其所レ由」と說いてある。道として其由る所を知らざらしむと云うては可笑しいが、此處が非常に意味のある所で、其由る所を知らうとするやうなことでは、既に骨を折らなければならぬ、自然に其由る所を知るか知らぬかの間に、道に這入つて仕舞はなければ本統に道を蹈むものでないのです。兎に角道は人の踏む所で、人間の道卽ち君臣、親子、夫婦、兄弟、朋友の間に自然に通じてゐる道である。

德者人之所得

夫から「德者人之所レ得。使下二萬物一各得上二其所レ欲」とあるは、之は德があれば人が自然に服從して來ますから、人間のみならず、御承知の通り、聖人は德禽獸草木に及ぼすと云うて、其德は禽獸草木までに及ぶ譯である。

義者人之所宜

「仁者人之所レ親。有二慈惠惻隱之心一以遂二其生成一」斯んなことは御承知の通りであります。「義者人之所レ宜。賞レ善罰レ惡以立レ功立レ事」。夫から又、「禮者人之所レ履。夙興夜寢以成二人倫之序一也」とありて、是丈けが土臺になつて居ります。

我國民の特性

所で我國民の特性は是に止まらぬ、もう一つ進んで居る、其は勇である。然し黃石公も勇は論じて居ない。御承知の通り、支那の學者は

孔子を除けては、勇と云ふことは餘り言はぬ方です。我國では道德仁義禮にもう一つ勇が加はつて居る、之が我國民の特性である。故に我輩は勇を加へたのです。

勇とは何ぞや

勇とは何ぞや、「勇者所斷以全仁義之道」斯う加へたいのです。幾ら仁義の道を唱へても、斷じて行はぬと何の役にも立たぬ。道德仁義禮に勇を加へて、甫めて完全するので、是に據らぬと仁義の道を明かにする事が出來ないと黃石公の素書に說いてある。此の道德仁義禮に勇を加へた所が、卽ち日本國民の特性の要素を成して居る點であります。

前述の如く勇なるものは物を斷ずる力でありますが、此の勇を以て國民の性質、國を治むるの要素として居る所は、世界國多しと雖も、我日本が唯一つあるのみで、外にさう云ふ國は無いと申しますのは、吾々の皆共に上に戴いて居る三種の神器と云ふものが、卽ち智仁勇の代表であるからであります。

神器と智仁勇

之は御承知の通り山鹿素行抔も論じて居る所で、素行は玉可三以表二溫仁之德一。鏡可三以表二致格之知一。劍可三以表二決斷之勇一と論じた。卽ち玉は圓にして仁なり、鏡は明にして智なり、劍は銳利にして勇なり鏡に對して虛僞は吐けない、無作法は出來ぬ、直ぐ其儘鏡面に映じて

仕舞ふ、何も彼も其儘鏡には知れる。璽は圓かにして而して角が無い故に是は仁の代表物である。劍は鋭利にして而して能く斷つ、是が卽ち勇である。

御神勅

天照皇大神が皇子孫に御傳へ遊ばされた所の神器は此の意味が加はつて、不言の憲法に爲つて居る。而して太古天孫が下界に降臨ます時に、御承知の通りの御神勅がある。卽ち「豐葦原瑞穗國は是れ吾が子孫の君とますべき地なり、爾皇孫就きて知食せ、寶祚の隆えまさんこと天壤と共に窮なかるべし」と宣給ひき。

此の神勅と共に三種の神器を御授けになり、是を以て天下を治めよ殊に此の鏡を以て我を見るが如くせよと御誡め遊ばされた。萬一にも此道に御荒廢のやうなことがあるといかぬから、此の鏡を以て我を見るが如くせよと宣はせられた。其中の一つが劍で、卽ち勇の代表者である。

天子の赤子なり

さうして見ると、吾々は如何に觀ても昔から萬世一系の帝室に依り智仁勇を以て治められて、二千六百有餘年の尊き歷史を持ち、他の國と違つて我が皇室より古いものは無いのだ。唯、出雲國の千家は素盞嗚尊の前より居つた樣であるが、太古は暫く別問題とし、只今の處では、天子より源平藤橘が出て、夫からずつと線を引つ張つて吾々が出て居るから、吾々は天子の赤子、大神宮は吾人の大御先祖であり、其赤子を御歷代の天皇が、智仁勇を以て治めて在らつしやると言ふこ

とが分り、萬世無窮の皇統と云ふことも自然歴史的に分つて來て、二千有餘年の間、盛衰は交々ありますが、明治天皇の御宇に至つて憲法が出來て、其第一條に「日本帝國ハ萬世一系ノ天皇之ヲ統治ス」と規定され、前記の神勅が轉々相傳はつて終に憲法の第一條に明記せらるることになつた。

實に萬世不磨、萬國に比類なく、又勇を以て治國の要素と爲した國は決して外にはないのである。故に勇は日本人には附隨物で、之から離れたならば、日本人の骨髓が無くなつて、國を爲すことが出來ぬ樣になつて仕舞ふのだ。

國の基礎

元來、國民に精神的でも物質的でも、特有物が無ければ國は立たない。國と云ふものは、必らず據つて以て、立つ所のものが無ければならぬ。

世界の各國と日本と照合して見ると、日本は何に依つて立つかと云ふと、外の國はどうも精神的の外に物質的に依るものがあるのです。然るに日本には夫が無い。其處で立國の基礎が違つて來るのです。

例へば英吉利ですが、英吉利は何に依つて立つて居るかと云ふに、之は資本を以て立つて居る。英吉利人は愛國心が無いかと云ふに夫は

可なりある。其の外に英吉利の資本が世界各國に出て居るものが四百億圓からある。今日、日本が英吉利から借りて居りまする二十億圓近くのものも、矢張り其内だ。戰爭開始前には、毎年英吉利から二十億圓と云ふ資本が海外へ出た。世界の各國から英吉利へ拂込む利子が、毎年凡そ二十億圓弱で、其高が外國に出ることになつて居た。其處で此の英吉利の資本が來ないと、世界の人が仕事が出來ぬやうになる。世の中の仕事は、御承知の通り、資本、勞力、土地の三者が結び着いて出來るのである。殊に文明世界になりますると、資本の力は餘程に強い、其資本と云ふものが英吉利から出るのです。

諸外國の基礎

無論佛蘭西、獨逸からも戰爭開始前には出て居つた。卽ち佛蘭西からは毎年十一二億圓、獨逸から十二三億圓のものは、世界各國中に毎年出た。處が少し話が横道に入りますが、戰爭後は大に出方が減少するので、多少商業の沈滯が世界各國に及ぶと云ふことは免れない。日本との貿易も大分に具合が惡くなつて來る。其處で禍を轉じて福とすると云ふこともありますから、西比利亞及び南洋地方に手を着けて遣ればこれぬことはない。

夫から獨逸はどうかと云ふに、之は何と云つても科學工藝は世界第

一で、餘程進んだものである。其處で今度の戰爭が始りました時に、我が日本も共に非常に之には困つたのです。獨逸品を買ひませぬと何も彼も非常に高くなる。それで是まで獨逸から來ました物を日本で作り初めましたが、出來ぬことはありませぬけれども、どうしても平均四倍は餘計に掛る。原料品が四倍は高くなる。又、或る品物は二十倍にも高くなつて居る物がある。平均先づ四倍は要する。

眞つ先に困りましたものは「グリスリン」と云ふ藥で、之は火藥を製造する藥品でありますが、之には餘程困つたのです。今はどうか斯うか出來ます。さう云ふ譯で、獨逸には禍ひ無からんことを希望すると云ふ、世界の同情が其處に一つある。

然らば佛蘭西はどうかと云ふと、之は實に不思議な國である。債權に付ては英吉利の次で、二番目に居て百六十四億圓から、外國に貸出して居る國であつて、戰爭が始つても依然として其金を回收して居らぬのです。英吉利も矢張り引揚げて居らぬ。又佛蘭西は妙な國で、流行の中心ですね、彼の佛蘭西から種々の流行が出るので、衣服其他の婦人の裝飾品の流行物は彼處から出て來る。さうすると矢張り「ハイカラ」連は同情を寄せる故に、人類の一部分には佛蘭西好みの者もある。これは甚だ以て妙なことであるが仕方がない。

然らば露西亞はどうかと云ふに、之は又麥、材木、石油と云ふものは露西亞から出なくては實際足りないです。之が亦物質的同情を惹く

亞米利加の棉花

に足りて居る。

亞米利加はどうかと云ふと、先づ麥、鐵、棉花、就中棉花が一番です。どうしても亞米利加の棉花が無くては世界が立行かない。亞米利加の棉花は世界の供給の七割五分を占めて居る。餘の二割五分を外で作る譯で、初めから自由自在に何でも自分の所で出來ると云ふ國は無い。彼處には麥があつても棉花が少なくて着物に困ると云ふ譯で、又資本で云へば、英吉利の資本が出なくなると、世界が大いに困る。

戰後の形勢

然るに日本に於ては物質的に何もさう云ふ樣なものは無いのです。

絹は贅澤物

絹が少し近頃世界的になつた樣ですが、未だ世界の需要の半分と行かぬ。而して絹は御承知の通り、非常な贅澤物で以て立派な物だ。其處で人が懷中具合ひの好い時には絹は賣れますが懷中具合が惡くなると、絹はキヌ〳〵と云うて人が着ない。其處で困るのです。

然るに日本では、主要なる輸出物と云ふは絹で、之がさう云ふ危險なものである。夫で此日本は物質的で以て世界に立つと云ふことは殆ど出來ないのです。又、近き將來に於て米國が養蠶國になる傾向がある。そこで我國も何かで以て立たなければならんです。

夫では何か造り出さうと云うても、さう急に造り出すことの出來るものでない。資本はどうかと云ふと債務國である。戰爭の爲めに九億

何千萬圓と云ふ正貨は得ましたが、未だ公私の外債と云ふものが二十億圓からあるのです。國のものが約十五億圓です、少しは減じましたけれども、まだ約十五億圓はある。其外府縣其他の團體の借と云ふものがありまして、國民の借りて居るものを合せまするとと約二十億圓と云ふ日本の外債で、之は正貨で以て拂はなくちやならぬ。

然るに輸出入の關係は御承知の通り、開戰以來軍需品の輸出が盛になつてから、輸出超過でありまするが、其前と云ふものは債務國の癖に何時でも輸入超過である。戰爭が終結したならば、暫くの間は宜いが、直ぐ戰前の情況の如きが舞戻つて來ると看なくてはならぬ。

戰後の勢を見まするには交戰國の回復力、之はどうであるかと云ふことを見なくてはならぬ。回復力は先づ佛蘭西が一番強い。さうして回復をした曉には、戰爭の前よりかずつと生產力が優つて來るです。之は大いに恐るべしです。佛蘭西は債權國である上に利子も率が高いものであるから、其這入つて來る利子が年々十八億圓であります。外國植民地から這入つて來るものが十八億圓であります。夫に今度戰爭の爲に破壞されました所の北部の工場と云ふものは、凡て四億圓の價格で、此方面は一番の工業地です。四億圓は大は卽ち大なるも、佛國は年々海外投資の爲め、十八億圓の金が浮くのです。夫で以て其四億圓は直ちに回復が出來る。其計畫はもう立つて居る。既に品物まで選定して居る。是々で以て斯う云ふ會社を作らうと云うて居る。機械器具

戰後の佛國

悉く破壞されて居りますから、今度採用する所の機械器具と云ふものは最新式になる。さうすると非常に生產力が增して來る。英吉利抔は破壞されて居りませぬから、矢張り元の機械が存して居る。之を取毀はして悉く最新式に爲すと云ふ譯には一寸行かぬ。此の競爭は餘程見ものです。其次には英吉利です。同國は資本に傷きませぬから回復力が矢張り速い。

露國及び米國

夫から露西亞はどうかと云ふと、當り前ならば回復が存外に速いのです。夫は無論英吉利の後ですけれども存外速い。併し同國の一番に困るのは戰爭の爲に外債が非常に增加したことです。併し壯丁も澤山に喪ひましたけれども、露西亞は御承知でありませうが、一億六千七百萬餘の人口があるのであります。鐵砲を擔いで徵兵の年齡に入るのが先づ二千萬人であります。故に戰爭の爲め壯丁一千萬人を喪うた所が、後に一千萬人は殘るのであります。さうすると生產力も繁殖力もさう衰へぬ。

西比利亞の發達

夫から西比利亞と云ふものは非常な發達である。西比利亞は御承知でありませうが、非常に廣い國で約四百八十三萬二千方哩ある。而して其鑛物の富、之は世界第一だ、夫から農業も大變に良いです。地味が膏腴でありまして、寒いことは寒いが、夏になると又、非常に暑い

です。平均熱度と云ふものは、他國に比してさう下らない。夫で物の出來ることは非常である。

さうして浦鹽斯德幹線が複線になつて、支線が五六線、戰爭の起る前の年に出來上つて、露西亞本部から西比利亞に移る人口が年々百萬人餘で、之に物資を供給すると云ふことは非常なものである。又、一方生產力も非常である。其物の供給は日本が主動者にならなくてはならぬ。

亞米利加の狀態

夫から亞米利加は勢がすつかり違つて來た。元來、亞米利加と云ふ國は戰爭開始前迄は、百三十八億圓の債務國であつて、其內からして外國へ貸付て居りましたのが凡そ四十億圓、さうすると差引九十八億圓の債務國であつた。夫で物品の輸出超過で其債務を返さなくちやならなかつた。然るに軍需品の註文の利益で以て今度は反對に債權國になつて仕舞つたのであります。夫で昔の樣に是非、物の輸出超過を圖らなくてはならぬと云ふ必要が無くなつて、餘程經濟が緩くなりました。そこで獨逸は亞米利加の軍需品供給には閉口して、戰前とは違つて亞米利加を好く思はぬ、其に反して日米は仲好くなつた。——戰爭の爲めにざつと斯んな變化が起りました。

獨逸の回復力

夫から獨逸、之は丸裸です。この先、實に回復は非常な困難です、

物資缺乏の獨逸

と云ふのは、獨逸は御承知の通り、國土の大きさが二十萬八千百八十方哩で、人口が六千八百萬人、其處で食物が毎年三ヶ月づゝは足らぬのであります。輸入をせぬといかぬのであります。夫がどうも三ヶ年も包圍を受けましたから、もう薩張りと物資が無いのであります。さうして加之に一昨年は收穫が非常に惡く、また、昨年は三分の一の收穫で、今年は百姓は殆ど種を蒔くことが出來ぬ、今年の冬まで推して參りましたならば、餘程ひどいだらうと思ひます。着物は、もう無くなつて居る。兵隊でも出來得るだけは短かい服を着て、下部の方は切りまして、之を還元して衣服を織つて居る。本年四月十五日以降には、人民一般に外所行き不斷着、各々一枚づつしか着物は持たぬ。銅、眞鍮抔と云ふものは、どう探しても無い。もう仕樣がない。何も彼も破壞して仕舞つた。

市街の白馬

夫からして面白い話があるのは馬ですが、馬は殆ど無くなつて仕舞つたのであります。馬は皆戰場へ送り出して仕舞つて居る。偶々獨逸の市街で馬を見まするとよぼ〳〵になつた白馬であります。白馬は戰場に持つて行く譯には行きませぬ。鐵砲の標的になるから仕方がありませぬが、そんな事を言うては居られぬから、白馬でも足腰の丈夫のやうなやつは、皆戰場に連れて行つて、其毛を眞黑に塗るのであります。其處で是迄は軍艦の塗替はありましたが、今度は馬の塗替へが始まつた。幾ら塗替へて見ても旨く行かぬ、根が白いものですから旨

（馬）く行かぬ、また烈しいのは、其のよぼ〳〵した馬を殺して食ふのであります。

其のよぼ〳〵して死に掛つた馬が一頭七百五十圓である。斯く馬肉が高いから、農民は子馬まで賣つて仕舞ふです。戰爭が濟むともう軍馬、農馬、挽馬とも殆ど悉く居なくなつて仕舞ふ。御承知の通り、彼地は大農がございますから、馬が居なくてはいかぬ。馬の居らぬ田畑と云ふものは小刀を持たぬ大工と同じことで、とても仕事は出來ませぬ。

小刀を持たぬ大工

夫から財政は先刻言つた通り甚だ困る。之は回復が餘程鈍いですけれども、其内の特別なるものは、又却々速いかも知れぬから、其處には注意をしなければならぬ。工業品抔の所謂獨逸の專門的のものは速いから、夫から先きに遣るかも知れぬ。其處は一つ〳〵に能く見て行かなければならぬ。夫は專門家若くは直接の關係者が觀なくてはなりませぬ。

まあさう云ふやうなことで餘程物資は缺乏して居る。此回復力は餘程鈍いと看なければならぬ。敵を知り己れを知る者は百戰百勝でありますから、先づ第一に敵を知らなくてはならぬ。さうして其内の一つ〳〵の事業に就ては、其事業家の人が特別に觀て行かなければならぬ。

國體を維持する爲めに

日本の基礎

先づ四海の情況は斯の如しである。夫で色々のことからして、此日本の維持法を考へなくてはならぬが、銘々が其職務に、一生懸命働かねばならぬは申すまでもないことですが、我國には御話し申した通り、何も物質的に據る者がないから、既説の如く、國體を維持するには精神的に勵むより仕方がない。

然るに、一方物質的の歐羅巴風のものが這入るに連れて、無論一般ではありませぬが、社會の一部分には精神の發動の多少萎靡する氣味合が、吾輩の眼には見える。

關羽の言葉

之は最も大切なことで、外に頼るものゝ無い、此の唯一の根據を失うては、迚も國は保てない。今日は昔より外國の關係も深いから、一層此根據を固くするの必要がある。依て其方法としては手近い事で、卽ち古人の曰うた事を守り、古人の行爲に倣ふのです。

關羽の説かれたことで、

説二好話。誌二好書。倣二好人。行二好事。

と云ふ句がありますが、却々好く言つて居ます。

諸君の中には學校抔に御關係で、御職務上、人の御子弟を御指導になる御方もありませう。又、御家庭で以て、子弟の教育に御注意になる方もあるでありませうが、其時の御利用になる爲に、餘り子供らし

くありますが、此の四句を申上げて置きます。

說好話、誌好書

「說好話」之は無論ですね。どうも物事は總て言語より亂れまするから、言語を愼まなければなりぬ。如何にも言語を愼んで以て、國家のこと、若くは忠臣義士の事にあらざれば語らぬと云ふ位に、言語と云ふものは之を愼まなくてはならぬが、此點は我同胞は少し困りますね。外國の人に少しく劣つて居るやうであります。

どうも汽車の中の話でも、途中を歩く時の話でも、宴會の席の話でも、どうも吾々から觀ると、どうしてあゝ云ふ事が言はれるかと思ふ言を愼め言を平氣で曰うて居る。御負に夫をきやつ〳〵と云つて笑つて、聽いて居る。人の話を聽いて笑つた時には、誰でも決して其の氣に逆うた時ではない。笑ふ方から見れば其の話は必ず御氣に入つたのである。之は困る。少し愼みたいのであります。諸君にはそんなことはありますまいが、口で許り好い事を云うてはいかぬ。

次は「誌好書」、書くことも矢張り好い事を書かなくてはならぬ。夫から倣好人」之はもう說明も何も要らぬ、タヾ御子供衆に御話し下さる時の材料になると思ひます。所で、此の三番目の「倣好人」に付て、一言申上げたい。

倣二好人一

日本の神様

之は日本では、非常に都合が好いです。之が日本人には他國の人よりも好く出來るですね。此の好機會と云ふものは須らく利用すべし、決して逸すべからず。如何となれば、外の國では、好人と云へば生存して居る好い人か、歴史上遺つて居る好い人かでありますが、日本の人も夫に違ひはないですが、日本は其歴史上に遺つて居る好い人と云ふものは、大方神様に祀つてあつて、皆神様になつて居る。其神様と云ふものをば敬つて、以て其人の性格、其人の徳にあやかり、又は其功業を感謝するの意で以て其人をば敬する。之は卽ち敬神だ。之が日本にはある、外國には無い。外の國は御寺ばかりだ。さうして寺院と云ふものも結構なものでありますが、あれは少し間違ふと、一寸可笑しいです。

しこたま悪い事をして置きながら、死ぬ時に悪うございましたと云うて阿彌陀佛を拜んで極樂へ連れて行つて下さいと云うた所が、もう追つ着かぬけれども、耶蘇でもさうです、しこたま悪い事をして懺悔をすると夫で宜い。

所が日本の敬神と云ふものは、さうぢやないのですね。私は不勉强でありますけれども、金持になりますやうに願ひます、又、人を散々に打ちましたけれども、何か利益を與へて下さいと。そんなことを神

樣に願ふ物好きはありますまい。

必ず神樣の前に行つたならば、其人の事業を追想して感謝の意を表し、夫にあやかりたいと云ふ心を以て、向ふの精神に此方の念力を持つて行くのであります。

敬神の意義

湊川神社は御承知の通り、正成を祀つてある。湊川神社に詣でて、己はどうか賭博に勝つやうにと云うて祈るものは無い。直に、御前さんは豪い人だ、國家の忠臣である。少くとも御前さんの十分の一位の忠臣に爲りたいものだ。斯う云ふやうな觀念が自然に起る。之が卽ち

好人に倣ふのだ。

日本の神は人である。眼が三つあるとか、手が千本もあるとか、顏が八つ有るとか、そんな化物ではない。手が千本もあつて堪るものでない、二本の手でも長過ぎては時々困ることがある。

深く申上げるにも及びませぬが、社は建てずとも、幽學先生の性行の微妙な所を觀ると、自ら心が改まるです。敬神は好人に倣ふの一部分になるので、之は宜しく利用すべしである。

學校の學齡兒童抔に其精神を吹込んで、天神樣の講釋でもするやうな時には、天神樣は菅原道眞と云ふ豪い忠臣を祀つたものである。御前方も忠臣にならなければならぬと云うて聽かせる。夫には神樣を此

方から可成に敬うて、簾でも掲げて置きませぬと御威光が立たない、其處で、鄕社抔は能く御祭りを願ひたい。

夫に就て、斯う云ふことがあるのであります。新田義貞の墳墓が越前の福井の先きにあるのですが、其が非常に荒廢して居るのです。我輩は行つて見て誠に慨嘆しました。近頃になつて、有志があつて大分に回復しましたけれども、其處に小學校の子供をば先生が連れて行つて、新田義貞と云ふ忠臣が、此處に埋葬してあると云うて説明した。

子供には敵はぬ

其時に子供の質問が面白い。どうも子供には敵はぬですね。そんな豪い方をば、何故斯んな卑賤な寺に葬つて置くのかと、斯う云ふのです。夫は御尤もです。義貞は義貞らしくして置かぬといかぬです。義貞の威光を藉りて、夫を吾々が利用すると申しますると、少し語弊がありますが、風教の一部を補佐して貰ふと云ふことは結構なことで、義貞は義貞らしくして置いたならば、義貞も自分の靈魂が風教の一助となると云ふことを喜ぶだらうと思ひます。

好人に倣ふと云ふことは頗る好い事で、關羽は中々好い事を云うて呉れました。

至誠

夫からもう一つ至誠と云ふこと、之は吾輩が系統を引いて見たのです。誠は言偏に成ると曰ふ字を書き、虚偽を吐かぬと曰うた事が事實

至誠の發顯

に顯れて來ることで、萬行の根本になるのであります。卽ち

至誠（—以仕君是忠、—以事父母是孝、—以事兄長是悌、—以對弟小是慈愛、—以對朋友是信義）

此の諸〻の德は皆至誠から出て來る。近頃、不思議な說が時々ありまして、忠孝何れが先きであるか抔と變なことを曰ふことを時々聞く。之は甚しい間違ひで、忠は忠、孝は孝で、決して前後はない。皆な誠から出て來て、對する者に應じて稱號が異なるのみである。

夫から又、信と云ふ字が御承知の通り面白い。此信と曰ふことも亦虛僞を吐かぬと云ふことで、人偏に言と云ふ字が書いてある。卽ち人言以て之を信とす、武士に二言はない、二枚舌は使はぬ、卽ち人の言うたことは信である。斯の如き知れ切つた事を諸君に曰ふのは失禮であるが、忠信孝悌仁義の道を子弟の方へ御傳への時に、御參考になれば仕合と存じ、申上げた次第であります。

忠孝一致

其處で忠孝一致と云ふことは、昔から忠臣は孝子の門より出づと云ふ言葉がありますが、其通りです。親に孝を盡すことの出來ぬやうな人が、君に忠を盡される筈がない。親に對して誠が無いやうなものが、君に對して誠がある筈が無い。

孝と云ふものは御承知の通り、一番に親しい近親の間に行はれ、人間の性の本となるべき者である。故に聖人も孝を以て敎の本として居られた。

忠孝一致

例へば小松の重盛と云ふやうな人は立派な人である。此人が孝ならんと欲せば忠ならず、忠ならんと欲せば孝ならず、と云うたことがあります。之は父を諫める窮した言葉で、其心事は推察するに餘りあるのです。

重盛の態度

あの時に重盛が、御父さん御尤もでございまするとと云うたならば、夫は孝ぢやない。法皇の所へ御出なさるならば、私御伴致しませうと云うたならば、親を不忠に陷しいれるのであります。

即ち、親の意に背いたから孝になるのであります。同時に君に對しては忠になる。夫は御尤も、御父さん御出なさいと云うて、自分が先きに立つて、走つて行つては決して孝になりはしない。

何も父の云ふ事なら、善きも惡きも『へい〳〵』と云ふのが孝でない。君ですらも、時に由りては諫め奉らねば、臣節を全うすることは出來ぬ。其職に居ながら、奉公の志を缺き、富貴に安んずるは、決して孝でない。假令、諫言耳に逆うて、其の爲めに家は貧弱にならうとも、臣節を全うし、流石に彼は何某の子丈あつて、感心なものであると、言はるゝが孝である。どこから見ても、忠孝は同じである。

特産物の維持

既述の如き格言的の文句は隨分ありますが、一々申上るにも及ばぬ事ですから、略して、此邊で實踐躬行して見ようと思ひます。決して出來ぬ範圍でない。出來得べきことで、心を勞することも何も無い、すらりと行きます。

座右の銘に、斯う云ふものがあつて、刺戟を與へるのも宜し、或は又、子弟を御指導なさるのに、此の文言が御用に立つことがありはせぬか、御互に善いと氣付いたならば、友人の間でありますから、御前さん方も亦良い考へがあるならば、私の缺點を補うて下さい、と斯う云ふ態度を以て、是丈けのことを御遣り下さつたならば、吾人の特產物なる、忠孝義節の維持は出來ようと思ふ。

此の特產物の維持丈は、どうしても爲なくてはならぬ。若し其方の維持を怠つたとしたならば、世界を凌駕するやうな、物質的の餘程大きなものが無いといかぬ。さうすれば多少精神的方面の缺陷があつても宜いが、夫が無い以上は精神一筋である。之を喪つて仕舞つては、何とも仕方が無い。丸で暗闇です。之を一つ御實行を願ひたいのであります。實に國家の大事でありますから。

戰後國力增進策

歐米交戰國に學べ

歐洲大戰は世界の經濟界に大變動を及ぼし、今後更に如何なる變化

を來すべきか、刻下の時局に際し、之が前途を豫想するは、誠に興味ある問題なりとす。而して之に關する精密なる數字を擧げて、細說することは姑らく他日に讓り、玆には只其の重要なる事項に就て編述せんと欲す。開戰以來の列國經濟界の今日までの經過に就て之を觀察すれば、何人も本邦經濟界の狀態が、歐米交戰國の其れに比して、著しき遜色あるを知るべし。卽ち是等の列國は、其の產業組織の何れも軍隊的にして、統一あり、秩序あるに於ては、全く我邦と其趣を異にせり。而かも本邦の商工業は、依然として個人的にして、全く彼の一騎打に類し、宇治川先陣その儘の狂態を演じつゝあり。此の如く非組織的、部分的、拔け驅け的にして何ぞ大產業組織の商工業と對戰する

本邦の商工業不振の原因

米國及び獨逸

ことを得んや。是に於てか吾人は、大に歐米交戰國に就て學ぶ事を要す。輓近英國に於てはマンチエスター主義の一時旺盛を極めしも、今やスミス主義の普及に依り、極端なる個人主義は玆に打破せられて、外國の競爭に對して一致協力するの美風を發生したり。

更に米國及び獨逸に於てはトラスト、又はカルテルの組織は益々發達し來り、產業上の統一的傾向愈よ盛んなり。而も統一の根本觀念は生產費を節約して製品を安價に賣却し、以て海外市場を擴張すると同時に、海外の事情を審かにし、之に適應する產業を奬勵せんと欲するにあり。而してトラスト及びカルテルは、之に屬する當業者を指導する爲め、幹部を設置し、各註文を配下當業者の能否に應じ、夫れ

幹部の指導振り

夫れ適當に分配すべく、即ち幹部の各當業者に對するや、恰かも參謀本部の軍隊に於けるが如く、一令の下に能く各機關を行動せしむるを得べし。

本邦の商工業

斯くせば團結

然るに本邦の商工業は猶ほ依然として舊態を脱せず、從前の如く十人分の註文を一人にて引受け、少しも他人に分與せずして製造を急ぎ常に粗製濫造を事とし、徒らに兄弟墻に鬩ぐが如くんば、本邦の商工業は衰退の一途あるのみ。此際本邦の商工業者は大に覺醒して以て、大産業組織の下に集り、一致團結して活動を開始するに至らば、日本

商品の研究

小なりと雖も、列强の間に伍して、如何なる場合にも咄嗟に大註文に應ずる事を得べきなり。要するに戰後に處する準備としては、工業に關する國家の保護如何と云へるが如き大問題を研究するよりも、寧ろ各個の商品が何れの國に適するやを研究すること最も必要なりとす。例へばカーキーの如き、同じ染料なるも木綿物向と又羅紗向とは非常の相違ありて、一口に染料として研究するも尙ほ不足を感ずるを免れず、是れ各商品に付きて研究の必要なる所以なり。目下各商品の研究を盡し、着々として戰後の準備に腐心しつゝあるは佛國なりとす。佛國は戰後各商品、各事業の盛衰消長に關し、研究に努力し居れば、戰後の回復力は最も速かなるべしと信ぜらる。

各交戰國の國債

更に、吾人は各交戰國の國債に就て見るに、各國何れも戰前に比して三倍の增加を來せり。卽ち獨逸は戰前百億の公債を有せしものゝ、千九百十六年末に於ては三百億に上り、又英國の國債は同年（大正五年）六月迄に二百三十二億に上れり、又歲出に於ては獨逸の戰前十二億なりしものゝ千九百十六年末に於て三十六億を示し、英國は三十六億を算せり。

經濟上の損害

而して其他經濟上の損害に於て、佛國は西部十二州の工場を破壞されしが、而かも此地方は戰前工業の中心地たりしが爲め、其の損害容易ならざるも、此等地方に於ける工場破壞の實費損害は約四億圓を超えず。而して佛國の海外より得る收入は十八億圓に達せるを以て、四億の工場破壞は毫も憂ふるに足らざるのみならず、大破壞の結果は、同國の舊式工場を新式の工場に改め、其の生產力を一層增進せしむるに至るべし。更に壯丁の損失は佛國の重大なる負擔なるが如きも、同國は氣候の適良なるが上、食物も豐富なれば、勞銀さへ少し引上ぐれば、忽ち各國の勞働者を吸收し得べきなり。

佛英の戰後回復力

卽ち其の戰後回復の案外迅速なるは、之を想像するに難からず。次に英國に於ては、其の海外放資額四百億に達し、年々の利子收入二十億を算せしも、海外放資額中四十億は海外に賣出せり。されど同時に、他の同盟國に貸付けたる額、略之に匹敵せるを以て其の對外放資額は殆んど增減なし。

而して英國の工業は佛國の如く破壞されざるを以て戰後直に新式となすを得ざれども、兎に角同國の戰後回復力は極めて迅速なる狀態にあり。次に獨逸の經濟界は英佛と異り、全く絕望的打擊を蒙れり、第一壯丁の戰爭に徵收され居るもの千七百萬人に上り、昨年九月迄の死傷數は三百萬人に達し、加ふるに食物の缺乏更に甚しく、本年(大正六年)五月より八月の收穫期に至る間に於て、食物の輸入に不足を告ぐる時は、同國は大飢饉の狀態に陷るべし。尙ほ獨逸に於ては、戰前より食物を準備せし爲め、戰後二年間は之を支へ得しも、三年目に至れば、到底支へられざる狀態にあり、而かも三年目に費消すべき食物の收穫は甚だ不良を告げたり。卽ち馬鈴薯は平時五千萬噸の收穫なるに

獨逸の經濟界

獨逸の慘狀

昨年は二千萬噸を減じて三千萬噸を示し、又小麥は千五百萬噸、大麥は五百六十萬噸を減少せり。更に牛馬豚は著しく減少し、只瘦せ衰へたる白馬の、時に悲鳴を揚ぐるを聞くのみ。されば貧民の如きは馬肉を口にする事も能はざるに至れり。其他油は全く缺乏し、近來は人躰燻蒸の窮策に出で居れるを聞けり。尤も公債の募集は成績比較的に良好なるが如きも、此は凡ゆる苦策を用ゐ、漸く一時を彌縫せるに過ぎず、又正貨の蓄積に對する同國の苦心は、他國の想像し得ざる所にして、或は國境を越ゆる旅客の金貨を强制的に紙幣に交換せしめ、或は僧侶をして信徒の所有する金貨金品の紙幣交換を勸誘せしめ、甚しきは一般人民に對し、金を所有せざることを證明せしむるに至れり。

加ふるに銅及び護謨の缺乏も亦極度に達せりと云へり。

露國に於ける當時の狀態

露國に於ては二百三十億の公債中、九十億を內債に求めたるは、從來、內債の發行に困難を極めし露國としては、甚だ良好の成績と云ふを得べきか。是れ禁酒令に依る貯金の增加、西比利亞に於ける富源の開發の顯著なること、及び鐵道の發達に伴ふ交通機關の整備等に依るものなり。又露國の壯丁補充力は、交戰國中最も優秀の地位を占め居れり。加ふるに露國は、今や英國の資本を輸入し、其の經濟上の關係を益々密接ならしめつゝあれば、戰後の回復に於て大なる便宜を受くべし。

經濟上の對英關係

當業者の任務

之を要するに、交戰各國の經濟狀態は大體斯の如くなるが、果して然らば、戰後此等各國の商品が、如何なる變化に遭遇すべきかは、是れ本邦當業者の大に研究すべき事項にして、佛國の如きは此種の調査に就き、全く遺漏なきを期しつゝあるは、吾人の取つて以て大に範とすべきことなりとす。

無くて七癖

格言と修養

蜀の關羽の言葉で『說二好話一、誌二好書一、倣二好人一、行二好事一』といふ

のがあります。これは説明するまでもありませんが、好話を説くとは好いことを話すといふことであります。妄りなことを話してはいけない、國家公共の事とか義士節婦のことゝか、自分があやかつて感謝して居ることを話せといふのであります、世間の人が餘り好話を説かない、私は吾々の同胞位言語の亂れて居る人種を知らないのであります。これは維新前後に世の中が大分亂れたので家庭などが隨つて紊亂した結果であると思ひますが大に愼しまなければならないのです。それから好書を誌すと云ふのは好い事を書くといふのでありますが、近頃公にされる書物は見るに忍びないものが多い。そんなものを書くなと云ふのであります。次に好人に倣ふとは好い人の眞似をすると

言語の亂れてゐる同胞

いふので、好事を行ふとは好い事をすると云ふのです。

斯くの如く古人の格言は吾等が平素の行を外部から刺戟して行くに誠によいものでありますから、今一つ十病根說といふのを紹介して諸君の參考に致し度いと思ふのであります。

裏き刺戟

虛堂の十病根說

人は無くて七癖と云ふて各自夫々癖がある。支那の唐の時代に禪宗の僧侶で虛堂といふ人が居た。其虛堂の語に

一　病在二自信不レ及一。

二　一向失是非處。

三　病在二我見偏執處一。
四　病在二限量窠臼處一。
五　病在二機境不レ脫處一。
六　病在二得レ少爲レ足處一。
七　病在二一師一友處一。
八　病在二旁宗別派處一。
九　病在二位貌拘束處一。
十　病在下自大了二一生一少不レ得處上。

と云ふのがあります。これを十病根說と申すのです。第一は病は自信の及ばざる處にありといふのであります。古來『深く信じ篤く行ふ』

深く信じ篤く行ふ

といふ事があるが、吾々は、どうしても自信がなくてはなりませぬ。深く信ずるといふことがなくては篤く行ふことが出來ない。自信を得るには知らぬといけないから、學ばなければならぬ。學ぶといふことは學校時代丈けではない、一生死ぬるまで學ばぬといけない。さうして自信を深くすれば、自然行が篤くなる、薄志弱行は信ずる處がないからであります。論語の中に『身を殺して仁を爲す』といふことがありますが、孔子はなか〳〵偉い人であります。仁義は生命よりも尊いものであるといふことを云つたのです。

仁義は生命より尊い

それから病は得失是非の處に在り、何事も得失利害によつてのみ動いてはならないと云ふことです。病は我見偏執の處に在りと云ふのは

説明するまでもなからうと思ひますが、次は病は限量窠臼の處にありといふのは大分六ケ敷い字が使つてあります。これは人間は怎うしても思ふやうに理窟通にはなか〳〵行かぬものであるから、雅量を以て之れを容れねばいかぬ。そこで雅量がなくてはいかぬと云ふことをいうたものであります。次に病は機境を脱せざる處にあり。人はなんでも機境に陷りたい傾を持つて居ります。自分は褒められようとか、自分は得をしようとかいふことが或る機境に起るのです。例へば文章を書いて大に世の歡迎を得ようとか、演壇に立つて拍手を得ようとか思ふと、これが卽ち機境に陷つたのであります。身は機境に在つても心は機境に陷つてはならないのであります。卽ち或物を得ようとか人

機境に陷るな

氣を博さうと思ふのは機境に陷るのだから病根説に當るのです。

足るを知らず貪らず

それから病は少しく得て足れりと爲す處にあり、これは小成に安んずる勿れといふのであります。少しく論題外に渉りますが序に申上げますと、小成に安んずる勿れと云ふのは良いが、又能く「足るを知れ」と云ふことを申すのであります。若し一般に足ることを知つたなら世の中の進歩はそれで止まることになります。一町の田地があればこれで足ると云つて一寸止まる、金が少し出來ると、足るを知つてこれでよいと滿心して働かぬやうになる。足るを知るといふことも好い

足るを知らず貪らず　一六七

足を知らず又貪らず

には違ひありませんが、何か足りない、其處で私は「足るを知らず又貪らず」と斯ういふ風に申すのであります。さうしてこれで自分の行を支配して居るのであります。蒙求にも「道に依つて財を得るは廉士も恥ぢざる處」とある通りで、孔子も「不義にして富且つ貴きは我に於て浮べる雲の如し」と云つて居るのです。道に依つて財を得ることは差支ないのであつて唯だ貪つてはいけないのです。不義にして富み且つ貴きものは最も宜しくない。人は道に依つて足ることを知らずに進んで行かなければいけない。但しこれには分限といふことがある、例へば米を穫るにしても一反歩に一石八斗穫れたからこれでよろしい。二石穫れたからこれでよろしいと斯う足ることを知つても困る

絶えざる向上心

が、又一反歩で十石も二十石も穫らうとしても不可ない。其處で分限内に於て二石五斗取れたが未だいけない、三石穫りたいと努めて行かなければならない。斯樣に分限の内でどし〳〵進むがよい。禪坊主はなか〳〵面白い事を云はれたもので、無線電話を發明したからといつて天狗にならずに、もう一つ無線と有線を繼續さした電話を發明しようといふ風に進んで行く、此精神の働きが忠孝節義を助けて行くのであります。

實行實働は我國の本領

それから病は一師一友の處に在り、これは甚だ困る事であるが實際

に此の病根がある。學者と唱へる部類の人になか〳〵ある。獨逸より外偉いものはないときめこんで何でも獨逸でなくばいけないといふ、英國にも米國にも夫々よい處のあるのに氣が付かないのは困つたものである。昔の漢學者等にも此病根があるので困る。それで我國には儒教の渡來までは、忠孝などはなかつたなどと途方もないことを云ひますが、成程昔は忠孝といふ文字はなかつたが忠孝の事は嚴然として存して居たので、それを支那の文字で現はしたのに過ぎない。我國は古來實踐實行の國で支那は文字の國であると云ふことに思ひ當らぬのです。次に病は旁宗別派の處に在り。之は人間は各自の本領を守つて、異端に走つてはいけない、何處までも本領の立脚地に立たねばならぬ

支那は文字の國

といふのであります。次に病は位貌拘束の處にありといふので、堂々魁偉の貴人の前に出ると其威嚴に打たれて云ひ度いことも云はれぬ、無理だと思うてもこれはいけぬと云へないそれではいけない、位貌に拘束されてはならぬ。最後に病は自大一生を了して少しも得ざる處に在り、之は少しでも地位を得ると自大と云つて大きな面をして威張りたがるが、さて一生を終へて天下公共の爲めに幾何の利益をしたかといふに、殆んど何の功績がない、それではいかぬと云ふのです。

以上の十病根の内で誰でも一つか二つ乃至三つや四つは持つて居るであらう。これを矯める樣に修養して行かなくてはならぬ。又岡目八目と云つて他から見ると人の缺點や癖はよくわかるから、友誼の切瑳

琢磨も結構であるし、又自分の座右の銘として書いて貼つて置くのも好い。さうすると中々用に立つ事がある。例へば他人が來てつまらぬ事でも云うて居る際「君は此病根に陷つて居るな」と、戒めるにも便利である。

時局に關する經濟問題

世界文明の逆轉

今次の大戰爭は、先づ世界文明の五十年の後戻りと見ても間違ひはあるまい。と云ふのは、戰爭前に於ては、餘程世の中が良くなり、諸般の經濟事情が大分調和を來たして、國際分業といふやうな工合になり、各々國々が、天與の長と、國民の特性に依つて其特長を發揮し、

世界的分業

世界的分業を爲し、餘程良くなつて居つたのである。

例へば、化學工藝品の如き、無論獨逸が一番好い。獨逸は彼の「カルテル」組織と云ふものに依り、弊害もあつたが廣く同業の組合を組織し、同業中の長を採り短を捨てると云ふことをなし、非常の發達を來たして、世界の供給者となつたのである。あれ位の仕事といふものは、自國だけの供給では、如何にしても不可能である。世界各國を顧客として、纏めてやるが故に大きく安く出來るのである。

レンズは墺太利

而して極く上等の眼鏡のレンズ樣の物は、如何にしても、墺太利が一番好い。ソコで墺太利が世界の需要を引受け、盛んにやつて居た。

之も自國の供給位にては、さう大きく良い物を安價に造る譯には參らぬが、世界の供給を引受けて居つたからして、大きく安く造ることが出來たのである。今日、我國に於て使用して居る所のレンズも好い物は矢張墺太利から來たので、之れが無くなると甚だ困るのである。

斯くの如く――言葉が重複する嫌ひあれども、世界各國が經濟的に國際的分業と云ふもので、巧みに進んで來て居つたのである。然るに此の大戰爭が開始された。此の戰が始つて既に三年有餘になる。ソコで今日迄分業をなして居つた品物の供給を得ることが出來ないことになつたから、世界各國が已むを得ず、不利益ながら、自分に皆相當の資本を投じて、今日は前述の如き物の自給の途を圖つて來た。既に三年有餘を經過し居るが故に、所謂投資々本の利害といふものが、茲に生じ來り、戰後に於て、投資々本の利害を如何にするかと云ふことが世界の問題になるのである。

一遍は起る戰ひ

戰爭は既定の事實

實に此の戰といふものは起らなくてはならぬ戰であるのである。之をば天から降つて來た樣に思ふのは大なる間違ひであつて、何れ一遍は起る戰である。唯それが西暦一九一四年八月に突然として起つたといふことは意外であつた。併し、それも亦或る事柄が誘うたのである。畢竟墺太利と塞爾維の關係である。今頃、騷ぎ立つて戰後の覺